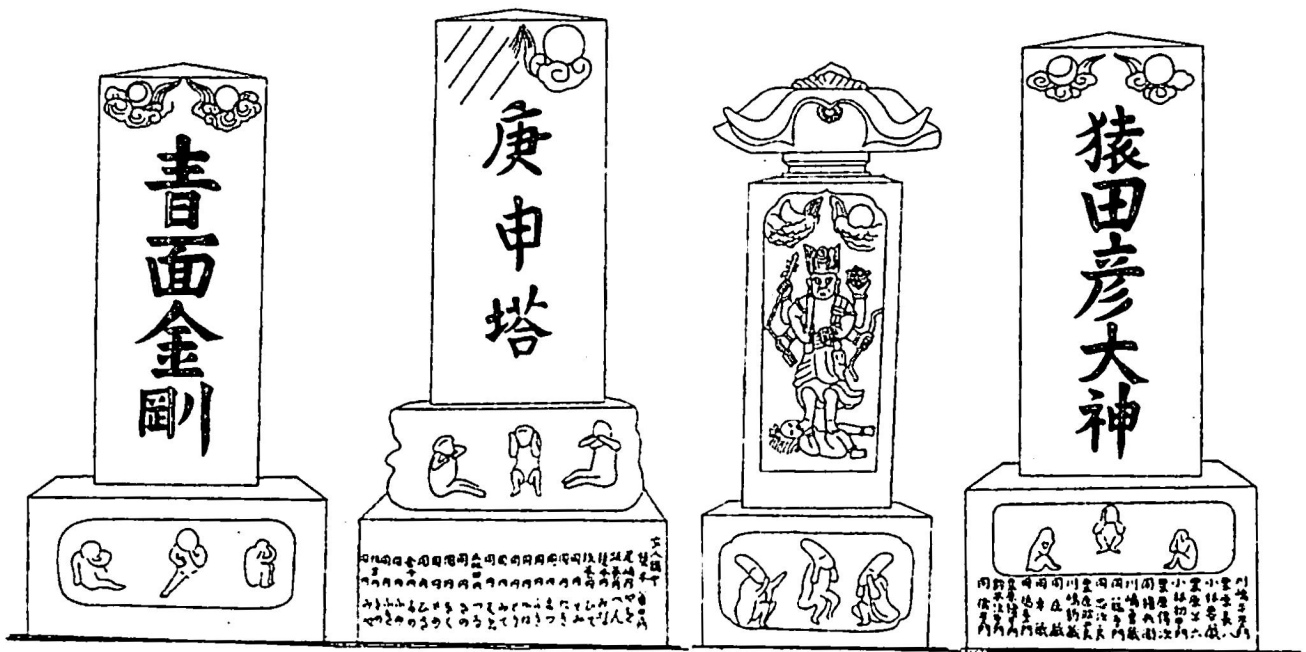


越谷市郷土研究会主催

第302回 史跡めぐり

の じ ま さ ん の み や お お み ち お お た け
野島・三野宮・大道・大竹の
石 仏 め ぐ り



日 時 平成14年4月29日(月)

集 合 越谷駅東口 午前8:30

方 面 市内 野島・三野宮・大道・大竹地区(徒歩距離:午前3キロ弱、午後3キロ弱)

コ ー ス 越谷駅東口(8:52)→野島バス停→浄山寺(「野島の地蔵尊」:住職の話、鰐口・鼻紙朱印状:トイレ)→向佐家(日本一の力持ち三之宮卯之助関係の版本)→三野宮の香取神社(卯之助の力石)→一乗院(神奈川御殿の建具:トイレ)→竹屋商店(七字題目板碑)→大道の香取神社(昼食:大道遺跡・山岡鉄舟の筆による石塔:トイレ)→大竹の香取神社(猿田彦の庚申塔)→東養寺(庚申塔)→大袋公民館(トイレ)→向佐家(屋号「元名主」)→大袋駅(解散)

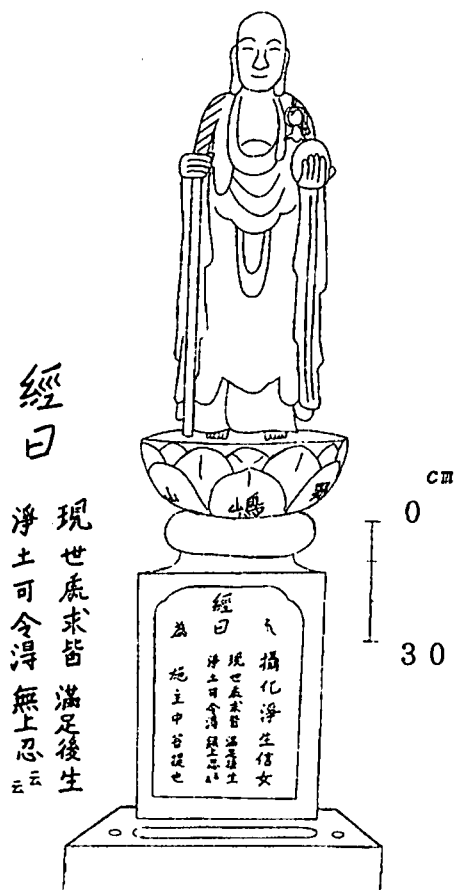
昼 食 各自持参

参 加 費 1,000円(見学場所謝礼、交通費、資料代等)

案 内 者 加 藤 幸 一

1. 野島

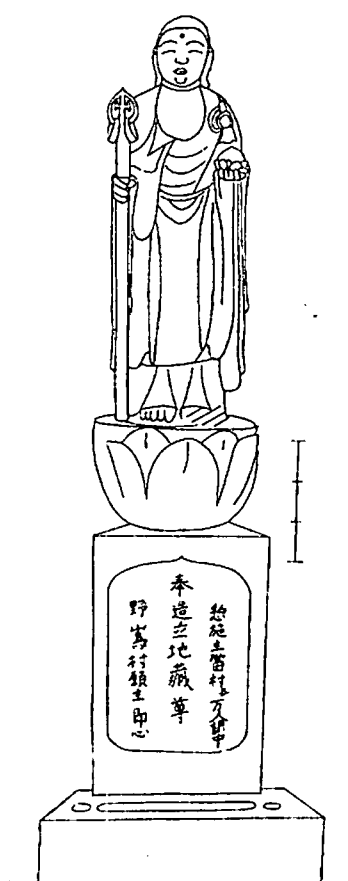
地蔵菩薩像



山
淨安寺

2. 野島

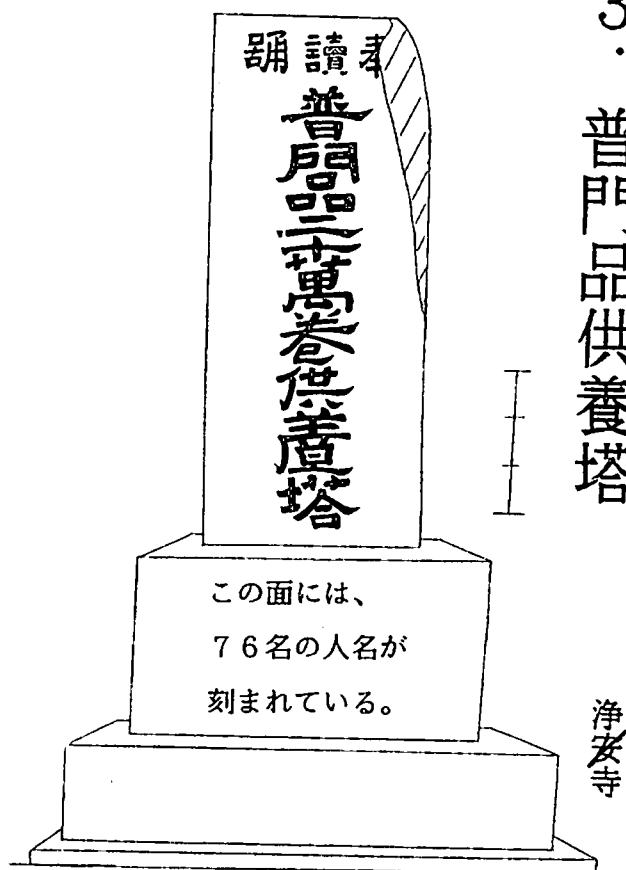
地蔵菩薩像



山
淨安寺

3. 野島

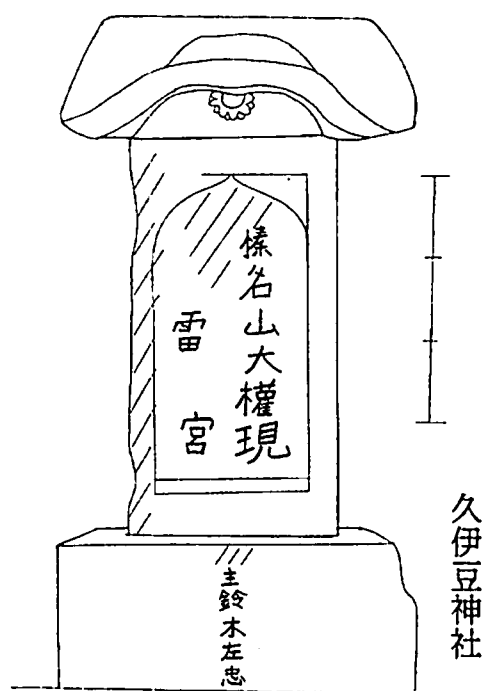
普門品供養塔



山
淨安寺

4. 野島

榛名山権現・雷電宮文字塔

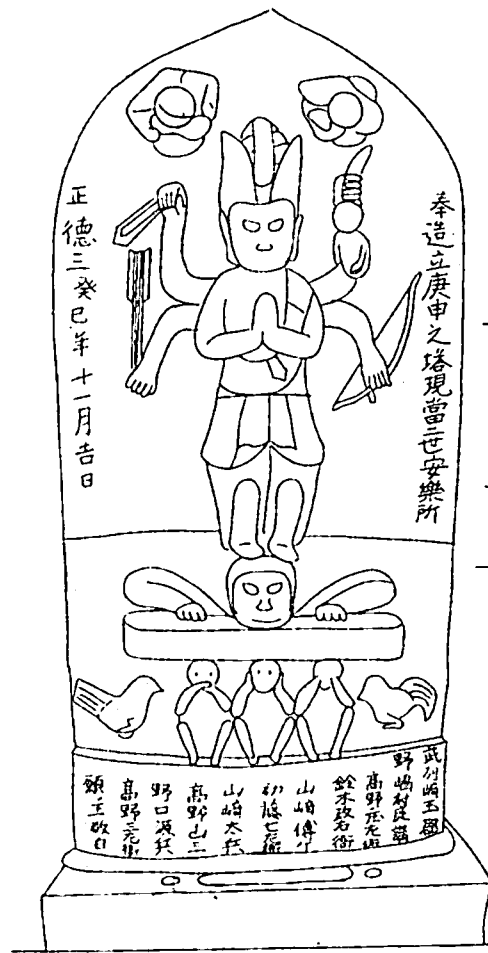


久伊豆神社

5^{野島}

青面金剛像庚申塔

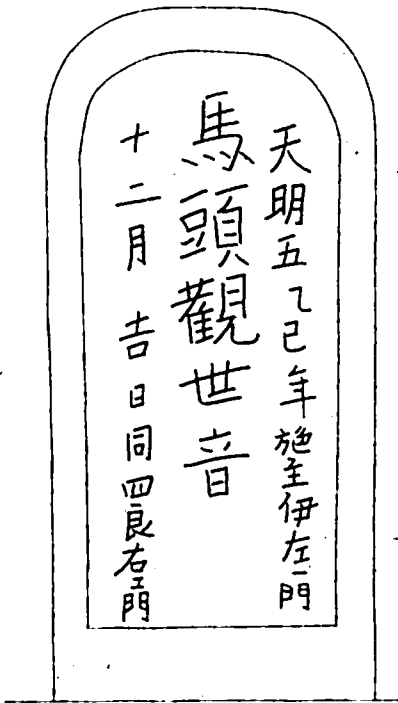
久伊豆神社



6^{野島}

馬頭觀音文字塔

野口家〔野島一八〇〕路傍



旧野島村の石仏

(1) 浄山寺 (野島地蔵尊)

浄山寺は、天正十九年(一五九一)に天台宗慈福寺から現在の曹洞宗浄山寺に改めた。寺伝によると、この年、徳川家康が来て寺領として三百石を寄進したが、この時の住職は過分であるとして辞退する。そこで家康は懐紙(ふところ)がみ・鼻紙)を取り出して、高(たか)三石として記し住職に与えた。このため家康から直接もらったとされる寺領高三石の朱印状を「鼻紙朱印状」と呼ばれるようになったという。

また、本尊の地蔵菩薩が僧侶の姿になって本堂を抜け村を出歩いていると、茶の木で片方の目を突き刺して片目になったとの片目地蔵伝説がある。毎年二月二十四日と八月二十四日は地蔵の縁日で、境内は露店などが立ち並び大変賑わった。

さらに、直径六尺(約一八〇センチ)もある全国に希にみる大きさの罽口(わにぐち・天保十二年、一八四一年に奉納)がある。

1. 地蔵菩薩像 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 野島・浄山寺山門前
石塔型式 丸彫(南向き・高さは超高)
年号 天保十四年(一八四三)

〔正面〕 「台石」

野

(梵字力) 撰化浄生信女

(地蔵菩薩立像) 嶋

経曰

現世處求皆満足後生
浄土可令得無上忍云云

為主 施主中菩提也

〔右側面〕

山

「台石」

当山廿一世珉宗代

天保十四 癸卯年初冬吉日

願主 葉山氏

2. 地蔵菩薩像 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 野島・浄山寺山門前
石塔型式 丸彫(南向き・高さは超高)
年号 享保十八年(一七三三)

〔正面〕

(地蔵菩薩立像)

〔右側面〕

「台石」

惣施主富村并万人講中

奉造立地蔵尊

野嶋村願主即心

「台石」

願以功德普及於一切

我等與衆生此共成仏道

昔享保十八 癸丑年
二月二日(二十四日)

3. 普門品供養塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 野島・浄山寺境内
石塔型式 頭部山状角柱型(東向き・高さは高)
年号 文化十年(一八一三)

〔左側面〕

文化十 癸天 酉年十一月廿四日樹馬

下野田村 宇田川勘左門

願主講中

同砂原住即明座

〔正面〕

奉

誦 普門品二十萬卷供養塔

※この石塔に刻まれた「誦」は、篆書体の漢字が使われている。

〔右側面〕

天下 穀 泰 平 成 就

〔台石(左側面)〕

新田 崎松五良

石田良右門

横川權兵衛

伊原岩右門

同 庄吉

石川次良右門

黒羽新右門

白石 龜藏

山口三良兵衛

岡部 角平

時田平右門

丸山惣左門

浮谷村

石井甚兵衛

倉持嘉右門

清水金右門

岩井次良介

並木八右門

同 与右門

同 与吉

山口惣五良

本田宗右門

同 十右門

本田政之丞

岩井幸右門

清水三良右門

砂原村

海老原平蔵
同 弥兵工

柏崎村

木崎善右工門
井田喜平次

大場村

坂巻政右工門
同 直右工門

岩附市宿

同 本彦左衛門
太安覺上座

〔佐〕藤村

山崎鉄五良
同 彌兵工

〔台石（正面）〕

同 久右工門
同 吉兵工

〔村〕

同 六左工門
同 宗兵工

小曾川

同 兵藏
同 兵藏

〔台石（右側面）〕

同 久右工門
同 吉兵工

大森村

同 兵藏
同 兵藏

〔村〕

同 六左工門
同 宗兵工

須賀村

同 兵藏
同 兵藏

〔台石（正面）〕

同 久右工門
同 吉兵工

三ノ宮村

同 兵藏
同 兵藏

〔村〕

同 六左工門
同 宗兵工

恩間新田

同 兵藏
同 兵藏

〔台石（正面）〕

同 久右工門
同 吉兵工

大森村

同 兵藏
同 兵藏

〔村〕

同 六左工門
同 宗兵工

須賀村

同 兵藏
同 兵藏

〔台石（正面）〕

同 久右工門
同 吉兵工

大森村

同 兵藏
同 兵藏

〔村〕

同 六左工門
同 宗兵工

須賀村

同 兵藏
同 兵藏

同 久右工門
同 吉兵工

同 兵藏
同 兵藏

同 兵藏
同 兵藏

同 兵藏
同 兵藏

同 兵藏
同 兵藏

同 兵藏
同 兵藏

同 兵藏
同 兵藏

同 兵藏
同 兵藏

同 兵藏
同 兵藏

同 兵藏
同 兵藏

同 兵藏
同 兵藏

三ノ宮村	同 秀蔵 森伊右工門 坂勝右工門 坂巻万右工門 同 金蔵 同 嘉右工門 根岸平右工門 森田長右工門 榎本市良右工門 須賀長左工門	大戸村	堀切与惣次 同 浅左工門 同 利左工門 同 次左工門 同 惣右工門 小嶋 文介 同 忠内 鈴木 久七 堀切斧右工門 小嶋次良七
〔台石(裏面)〕 岩附市宿町	佐のやちよ 板屋孫七母 細井五太夫 川じまてう 小川 さよ 田中 きく	荻嶋村	中島 要蔵 嶋村定右工門 会田 長蔵
横根村	吉田 佐吉 山崎 銀蔵 清水 文蔵 同 次良八 宇田川清蔵 同 角右工門 同 庄左工門 同 幸七 本田万右工門 夏目 林蔵 大佐原沢右工門 田口 源蔵 同 乙右工門	切組	石井弥兵工 栗原弥三良 川上由右工門 細沼武右工門 竹内 利介 石井久右工門 藤井弥五兵工 会田清右工門
笹久保村	鈴木喜平次 田中弥兵工 宮野万右工門 会田 与介 吉田 郡蔵	大里村	小暮 兵蔵 海老原佐平太 吉田由右工門 押田 金蔵 長野幸左工門 同 樞蔵 多ヶ谷常八
足立郡高畑村	同 与介	大畑村	同 兵蔵 吉田由右工門 押田 金蔵 長野幸左工門 同 樞蔵 多ヶ谷常八
尾ヶ崎新田	吉田 郡蔵	下新井	増岡勘右工門 清水 佐七 中嶋丈右工門 同 四良右工門 同 源蔵 万人講中
笹久保新田	新井新右工門 桑原吉良兵工 中村 清蔵 齋藤七右工門	横根村	野口平兵工 久米原直右工門 田口由右工門 川島仲右工門
	大 道	セ八人	

※「越谷市金石資料集」の道標一番に、野島岩槻街道の路傍の「野島地蔵尊入口」と刻まれた道標を紹介しているが、これは昭和三十年代に作られた高さ約百二十五センチの大理石製である。越谷市教育委員会が市内の石仏の悉皆調査した昭和四二・三年頃には既に県道越谷・岩槻線の野島バス停あたり(県道からの浄山寺へ入る入口)に設置されていた。現在は、浄山寺の裏(北東方向)の土手道に移転されている。※なお「越谷市金石資料集」に浄山寺にあると掲載されている普請供養5、6、13が現在所在不明である。

(2) 久伊豆神社

この久伊豆神社は、野島村の鎮守である。

4・ 櫓名山権現・雷電宮文字塔(「越谷市金石資料集」櫓名一番)

所在地 野島・久伊豆神社

石塔型式 祠型(東向き・高さは中)

年 号 天保九年(一八三八)

〔左側面〕

(天) (戌)

□保九戌□十二月吉日

〔正面〕

棟 檜 夕 山 大 権 現

〔台 石〕

(願)

□主鈴木左忠

(雷)

電 宮

〔右側面〕

(表面が破損しているため解説不能)

講中

5・ 青面金剛像庚申塔(「越谷市金石資料集」庚申五四番)

所在地 野島・久伊豆神社

石塔型式 舟型(東向き・高さは中)

年 号 正徳三年(一七一三)

〔正面〕

奉造立庚申之塔現當二世安樂所

武州崎玉郡

野嶋村庚講□(中)

高野庄左□(衛門)

鈴木政右衛□(門)

山崎傳□(門)

山崎太兵□(衛)

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

正徳三癸巳年十一月吉日

高野山三〇〇
野口源兵衛(衛)
高野三左衛門(門)
願主敬白

(3) 野口家(野島一八〇) 改路傍

6. 馬頭観音文字塔(『越谷市金石資料集』馬頭六番)
所在地 野島・野口家(野島一八〇) 前の路傍
石塔型式 上部隅丸角型(南西向き・高さは中)
年 号 天明五年(一七八五)
〔正面〕

天明五乙巳年 施主伊左門

馬頭観世立音

十二月吉日 同 四良右門

※高野家(野島三〇一)の北側路傍に造立された高さ約六十二センチの
馬頭観音文字塔がある。次の通りである。

◎馬頭観音文字塔(『越谷市金石資料集』馬頭三八番)

所在地 野島・高野家(野島三〇一) 北側の堀割りそばの路傍
石塔型式 上部隅丸角型様特殊型(南西向き・高さは中)
年 号 明治二十五年(一八九二)
〔正面〕

明治二十五年

馬頭観世立音

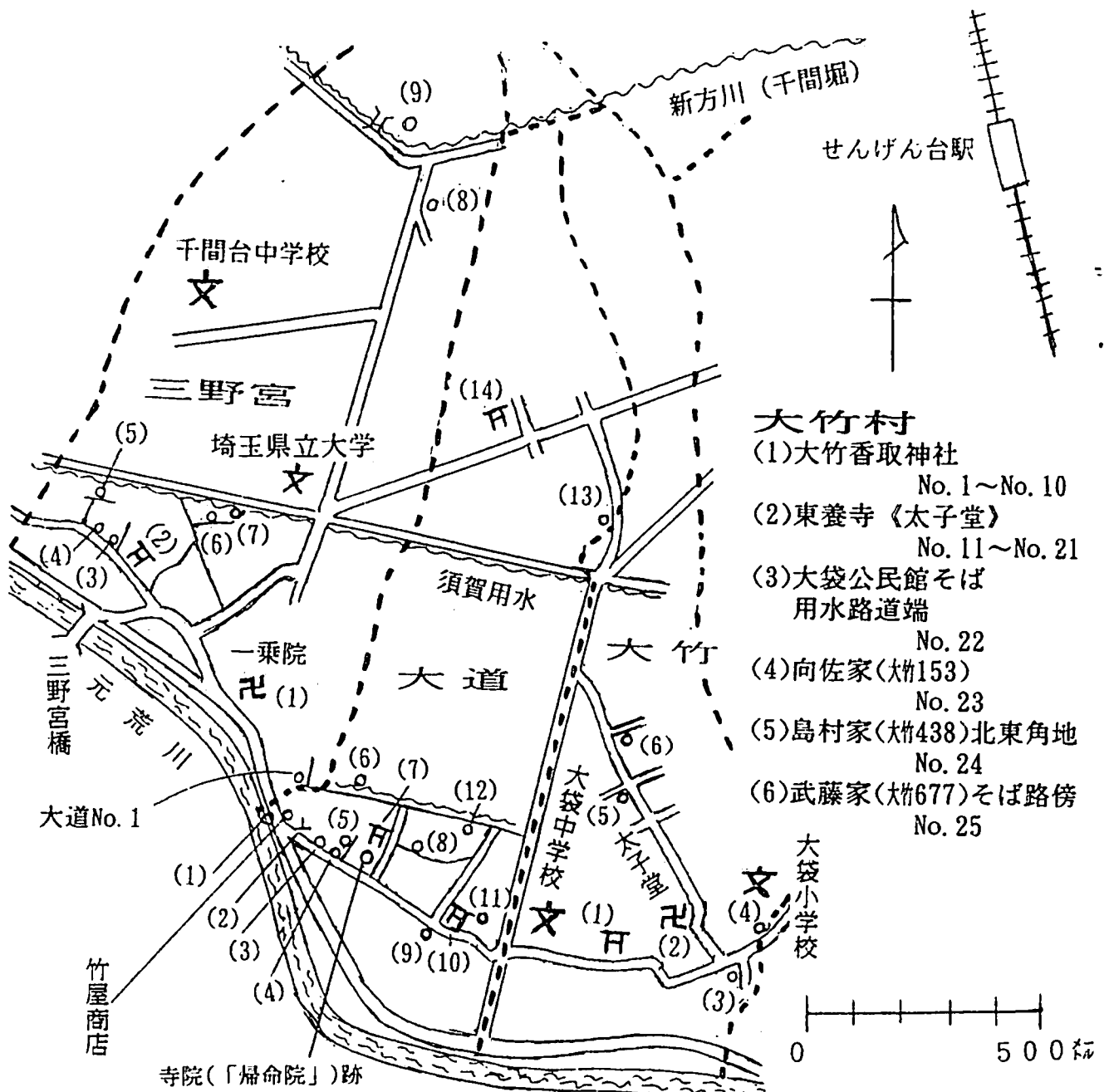
八月廿二日

〔右側面〕

大正三年三月廿二日建之

高野あさ

三野宮・大道・大竹の石仏案内図



三野宮村

- (1)一乗院 No. 1~No. 16
- (2)三野宮香取神社 No. 17~No. 23
- (3)坂巻家(三野宮246) No. 24~No. 26
- (4)森田家(三野宮248) No. 27~No. 28
- (5)森田家(三野宮194) No. 29
- (6)森田家(三野宮291) No. 30
- (7)森田家(三野宮447) No. 31~No. 33
- (8)榎本家(三野宮1912) No. 34~No. 36
- (9)須賀家(三野宮1971) No. 37~No. 41

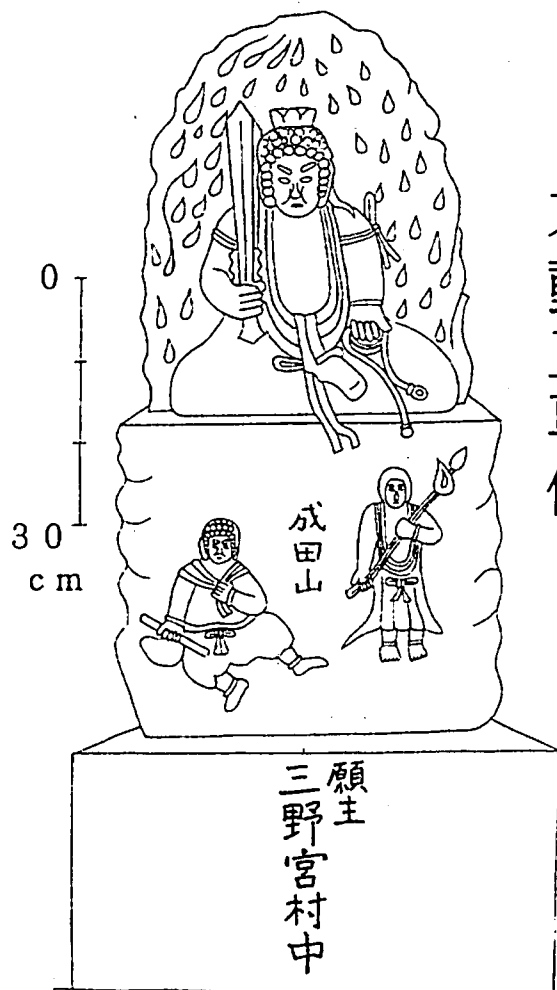
大道村

- (1)竹屋商店周辺路傍 No. 1~No. 3
- (2)『寮』(大日堂)の墓地 No. 4
- (3)上手組(おでろ)管理の香取社 No. 5
- (4)鈴木家(大竹65)路傍 No. 6
- (5)鈴木家(大竹108)邸内 No. 7
- (6)川島家(大竹16-1)そば用水路 No. 8
- (7)大道香取神社 No. 9~No. 10
- (8)川原家(大竹184)路傍 No. 11
- (9)八坂神社そば路傍 No. 12
- (10)八坂神社 No. 13~No. 14
- (11)八坂家(大竹487) No. 15~No. 16
- (12)川島家(大竹212)路傍 No. 17
- (13)小林家(大竹14) No. 18~No. 19
- (14)大道新田稻荷神社 No. 20~No. 26

大竹村

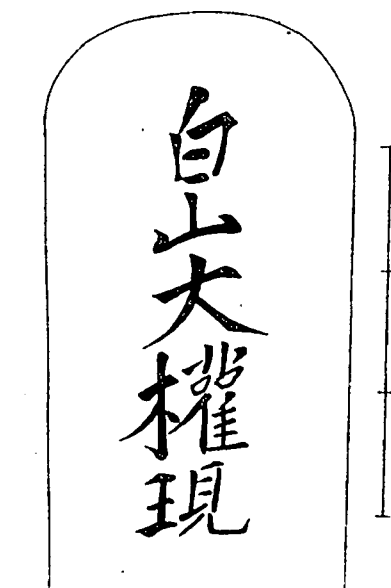
- (1)大竹香取神社 No. 1~No. 10
- (2)東養寺《太子堂》 No. 11~No. 21
- (3)大袋公民館そば用水路道端 No. 22
- (4)向佐家(大竹153) No. 23
- (5)島村家(大竹438)北東角地 No. 24
- (6)武藤家(大竹677)そば路傍 No. 25

1. 三野宮
不動三尊像



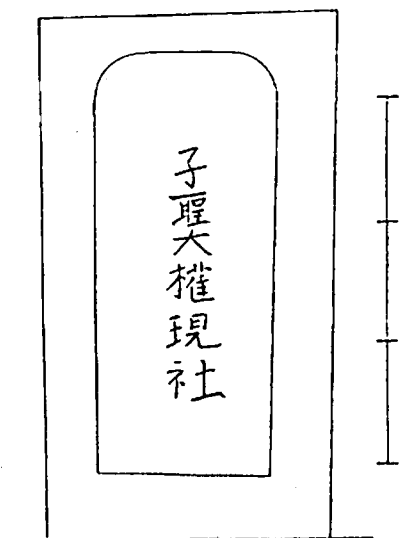
一乘院

2. 三野宮
白山大権現文字塔



一乘院

3. 三野宮
子権現文字塔 ねのこんげん



一乘院

4. 三野宮
青面金剛像庚申塔

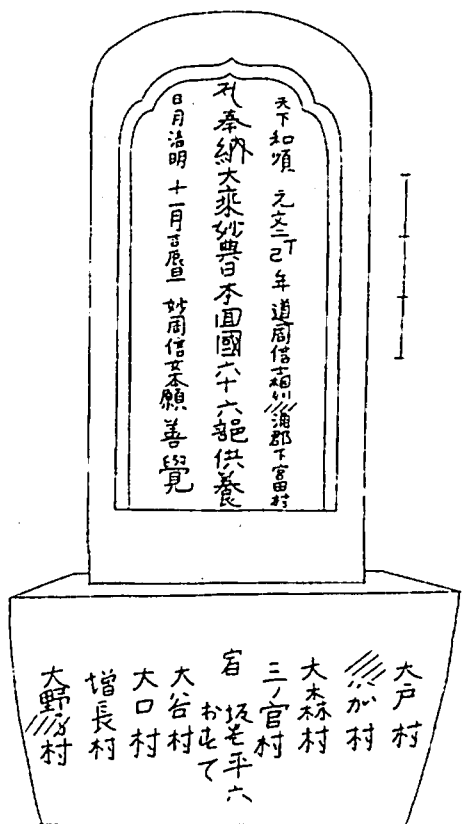


一乘院

9・三野宮

六十六部回国塔

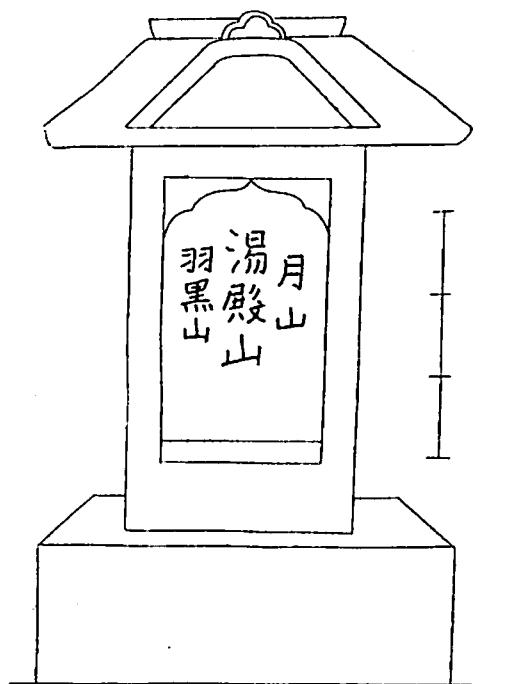
一乘院



10・三野宮

出羽三山文字塔

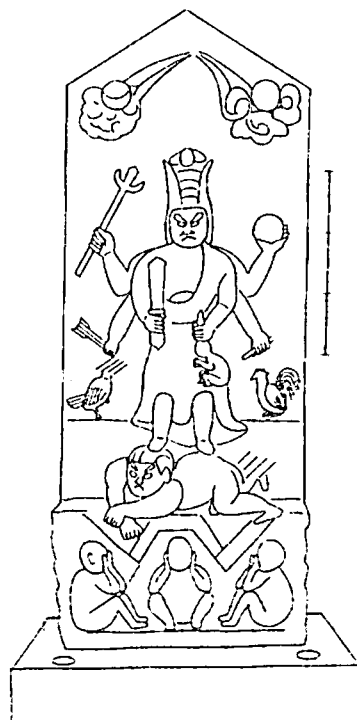
一乘院



11・三野宮

青面金剛像庚申塔

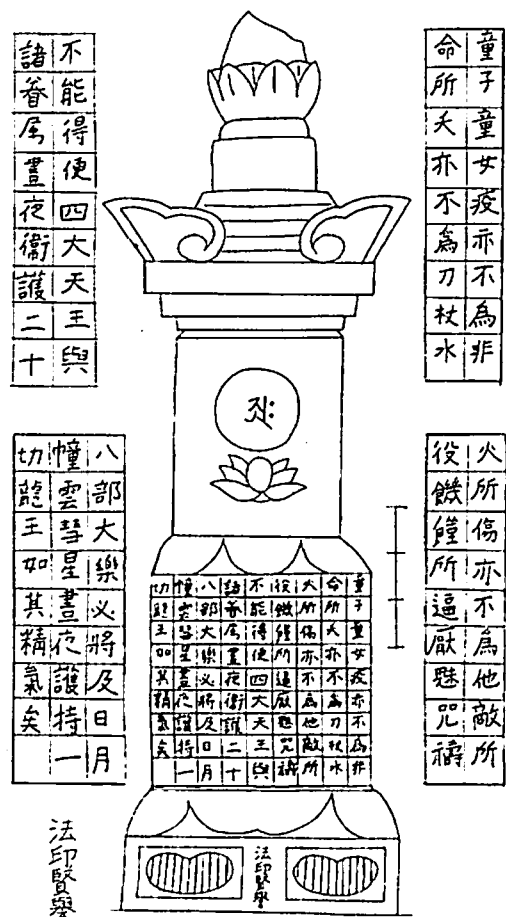
一乘院



12・三野宮

宝篋印塔

一乘院



三野宮
13

馬頭観音菩薩像

一乗院
成就處

奉造立馬頭観世音像一軀日念三白箇日供養



享保十五庚戌天八月十八日

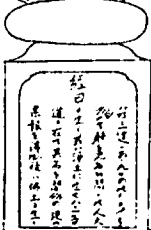
本願主 善學見

大野嶋 増長村 大口村 大谷村 大戸村 須賀村 大木村 三ノ宮村 日参往來施主
長宮村 増戸村 増富村 下野田村 花堤村 慈恩寺 平野村

三野宮
14

丸彫り地蔵菩薩像

一乗院

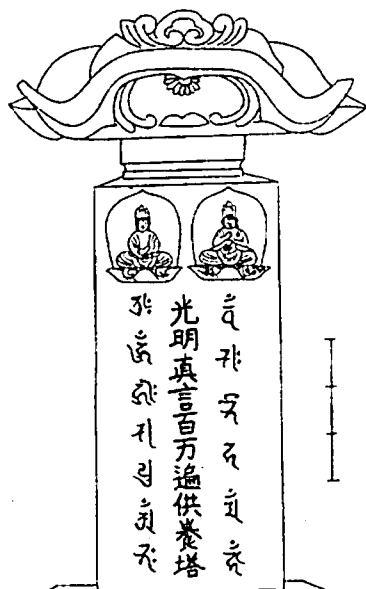


此三途小あんの此なり
ノヤ 軒を元名に開これ人天
經曰 生し或ハ浄土に生セハ三等
道に在て其名を聞の現の
果報を得必後ハ佛土に生

三野宮
15

光明真言供養塔

一乗院

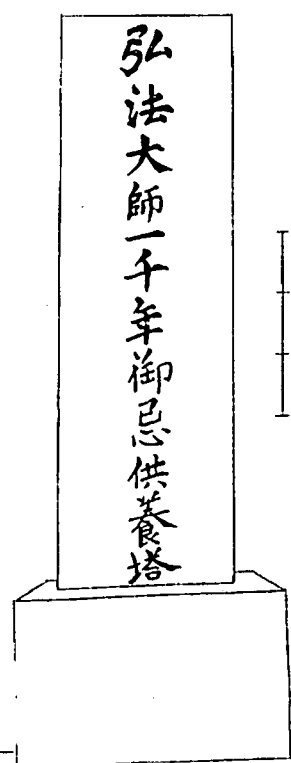


森田 治良 金本 五藏 根子 五藏 根子 五藏 倉橋 八左 尾崎 八左 向坂 仙之助 佐々 門門門
講中
四坂倉尾根金明森
佐基福崎得子本田
か山全ハ八五清林治
之生生五 五 良
人よとのつりなむ う助門門門

三野宮
16

弘法大師一千年御忌供養塔

一乗院

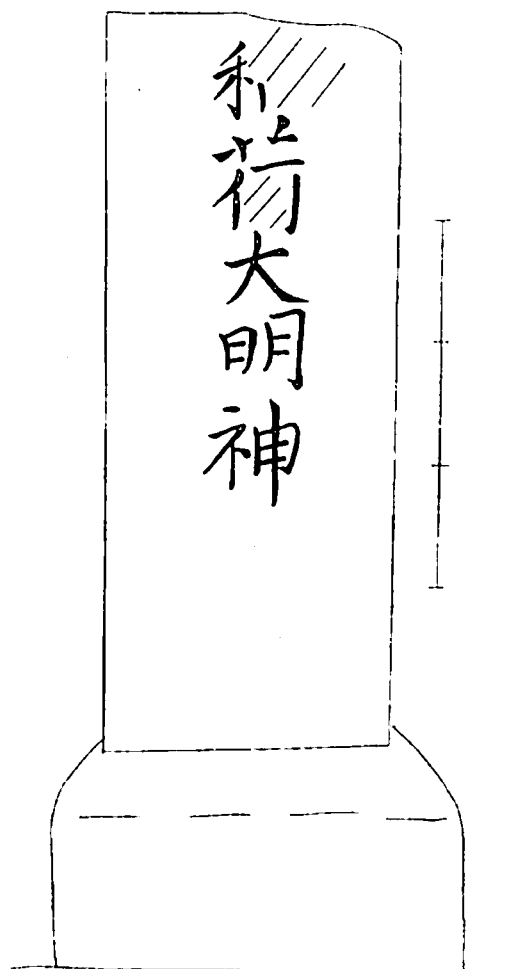


弘法大師一千年御忌供養塔

21^{三野宮}

稻荷大明神文字塔

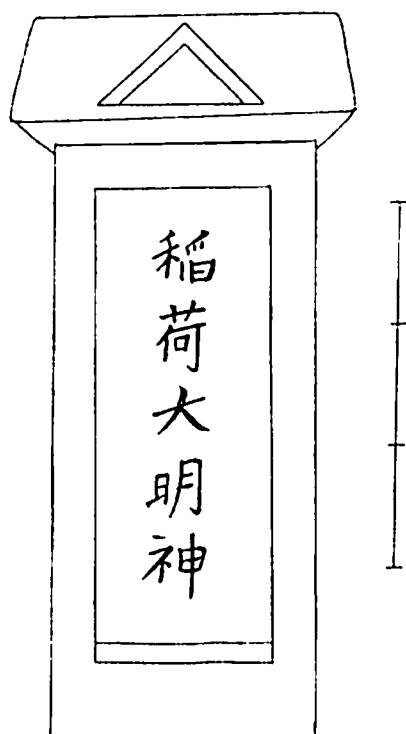
三野宮香取神社



23^{三野宮}

稻荷大明神文字塔

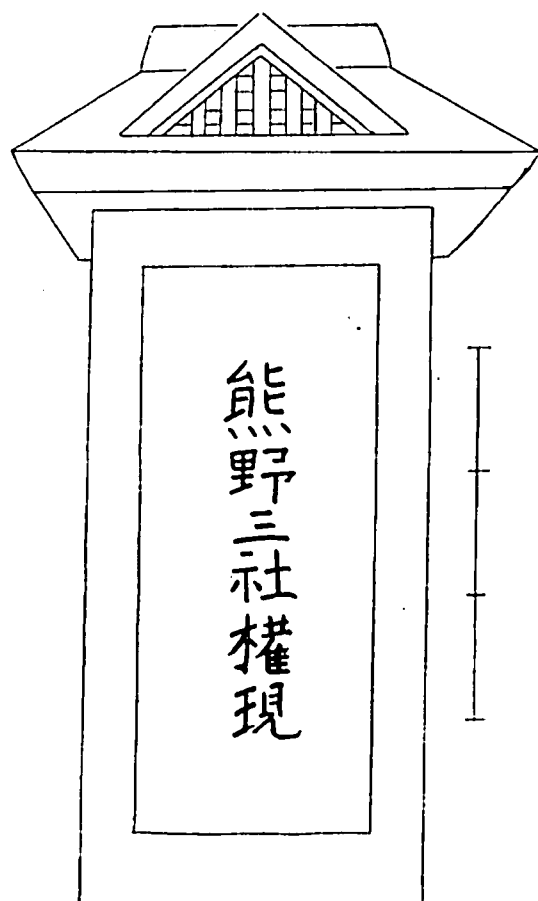
三野宮香取神社



22^{三野宮}

熊野三山文字塔

三野宮香取神社



24^{三野宮}

地藏像付き六十六部回国塔

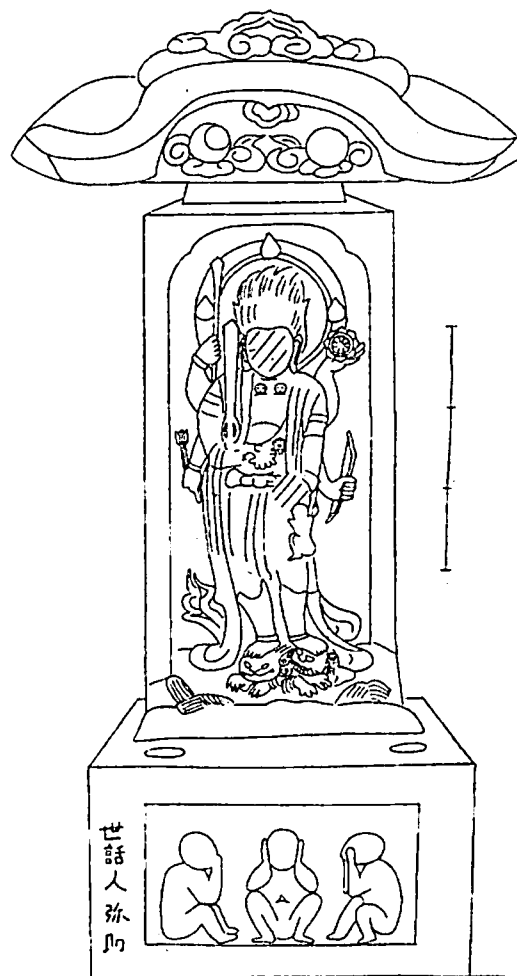
坂巻家「三野宮二四六一」路傍



25^{三野宮}・

青面金剛像庚申塔

坂巻家「三野宮二四六―二」路傍



26^{三野宮}・

青面金剛像庚申塔

坂巻家「三野宮二四六―二」路傍



27^{三野宮}・

青面金剛像庚申塔

森田家「三野宮二四八」路傍



28^{三野宮}・

道標付き観音菩薩像

森田家「三野宮二四八」路傍

森田家「三野宮二四八」路傍



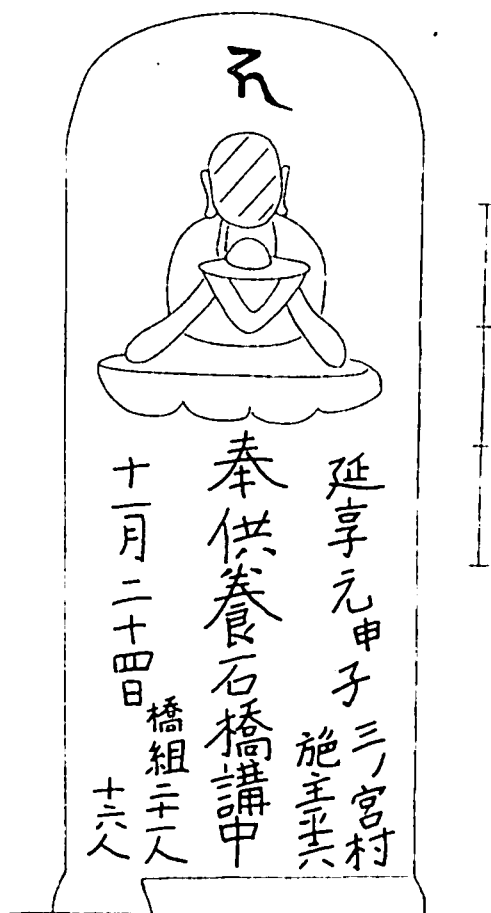
〔側面〕

ぢおんどろ

33^{三野宮}

石橋供養塔

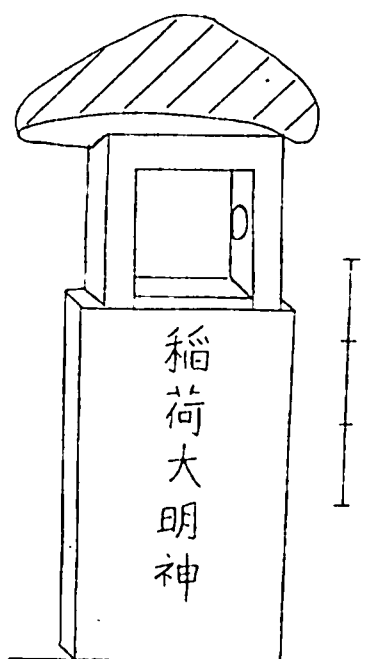
森田家〔三野宮四四七〕そば橋脇



34^{三野宮}

稲荷大明神文字塔

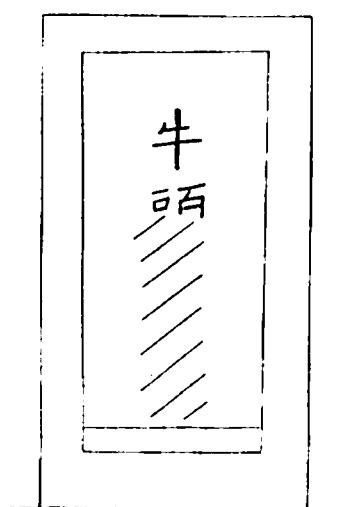
榎本家〔三野宮一九二〕祭祀地



35^{三野宮}

牛頭天王文字塔

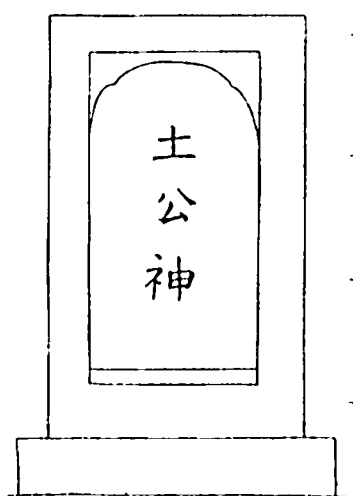
榎本家〔三野宮一九二〕祭祀地



36^{三野宮}

土公神文字塔

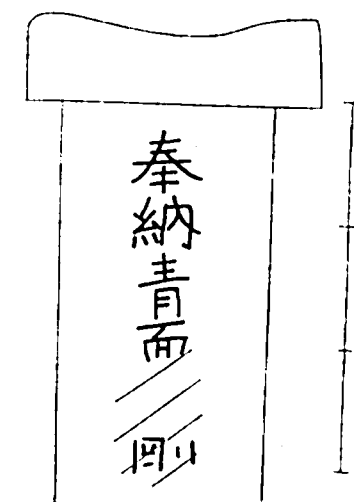
榎本家〔三野宮一九二〕祭祀地



37^{三野宮}

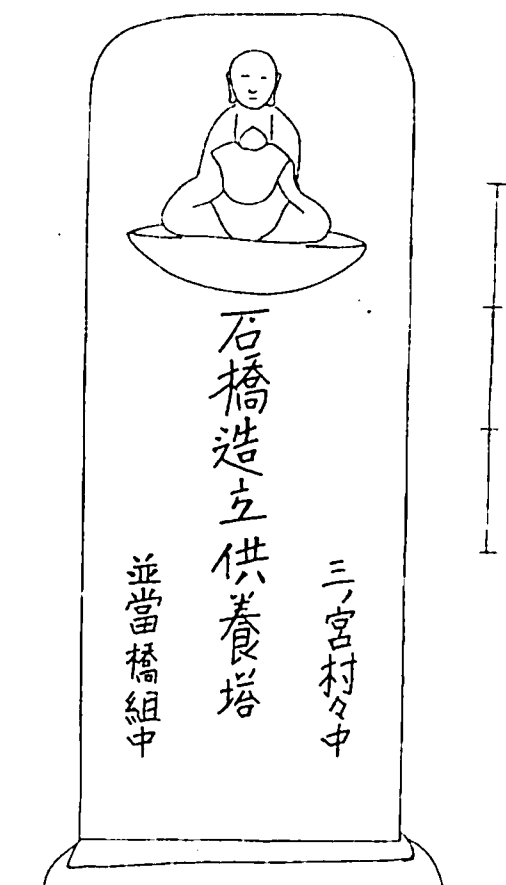
文字庚申塔

須賀家「三野宮一九七二」路傍



38^{三野宮}

石橋供養塔



39^{三野宮}

地藏菩薩像

須賀家「三野宮一九七二」路傍



40^{三野宮}

青面金剛像庚申塔



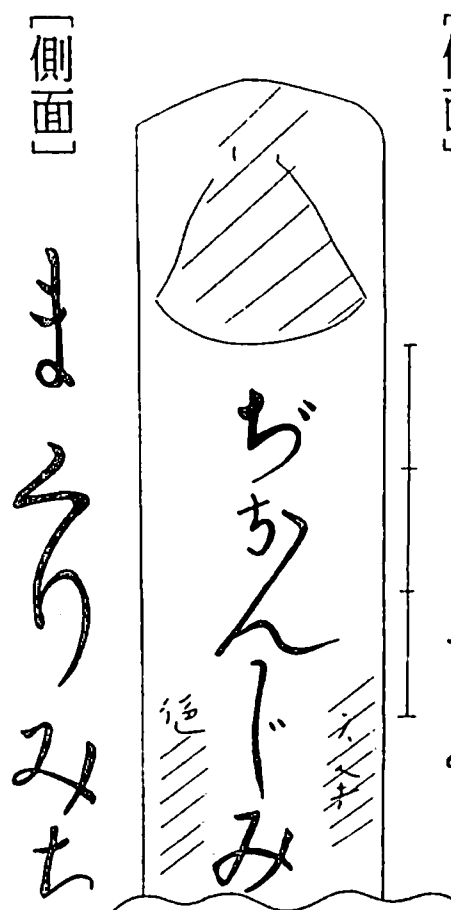
須賀家「三野宮一九七二」路傍



3. 大道 標石塔

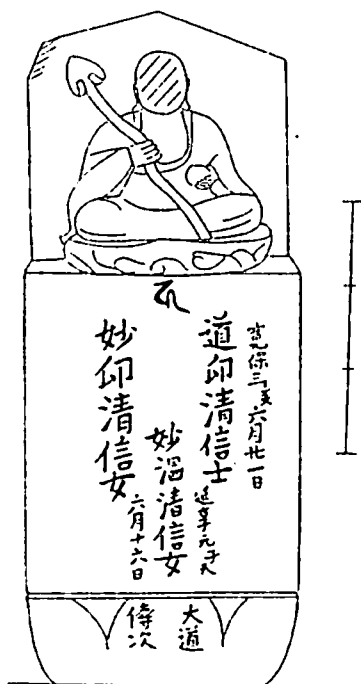
竹屋商店周辺

〔側面〕 こーがやみち



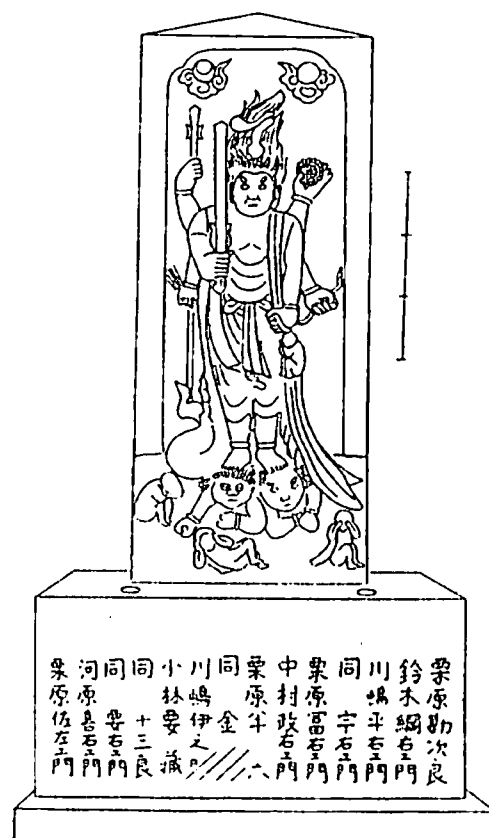
4. 大道 地蔵像付き墓塔

「寂」(大日堂)の墓地



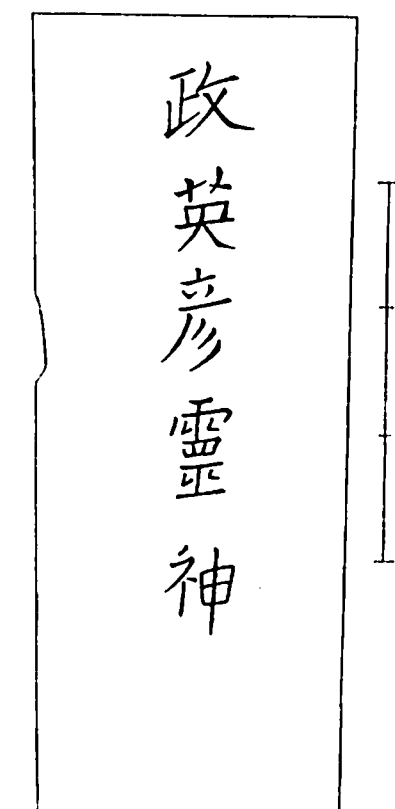
5. 大道 青面金剛像庚申塔

上手組管理の香取社



6. 大道 霊神墓塔

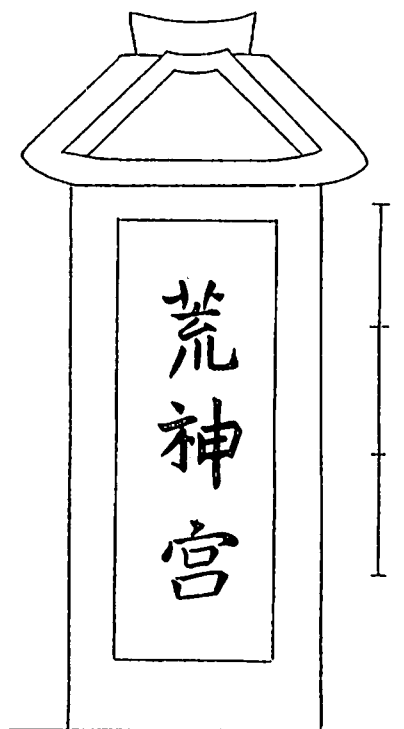
鈴木家「大道六五」路傍



7^{大道}

荒神宮文字塔

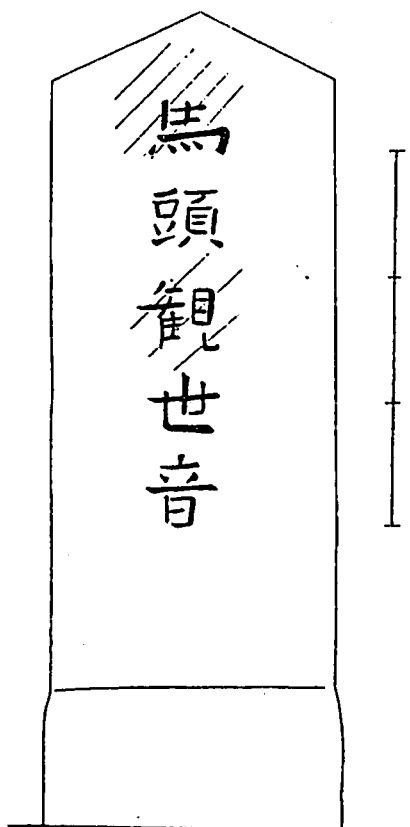
川島家「大道一〇八」邸内



8^{大道}

馬頭観音文字塔

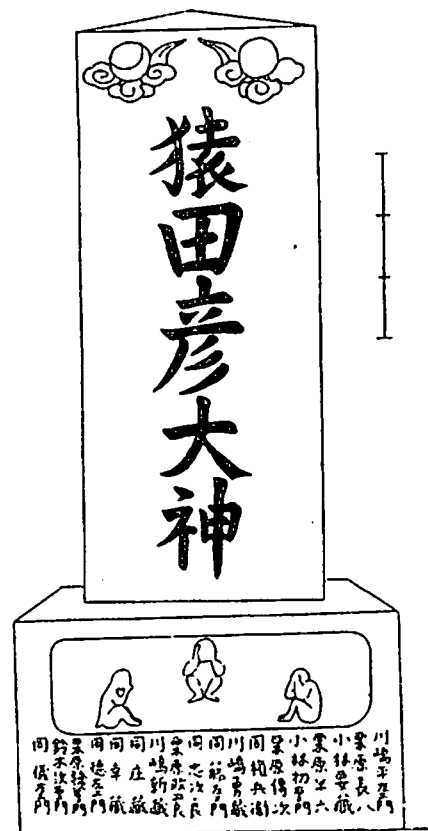
川島家「大道一六一」そば用水路



9^{大道}

猿田彦文字庚申塔

大道香取神社



川島平左門
栗原長八
小林要藏
栗原半六
小林初右門
栗原傳次
同 権兵衛
川島勇藏
同 勝左門
同 忠次良
栗原政五良
川島新藏
同 庄藏
同 幸藏
同 徳左門
栗原協右門
鈴木汝右門
同 儀左門

10^{大道}

文字庚申塔

大道香取神社



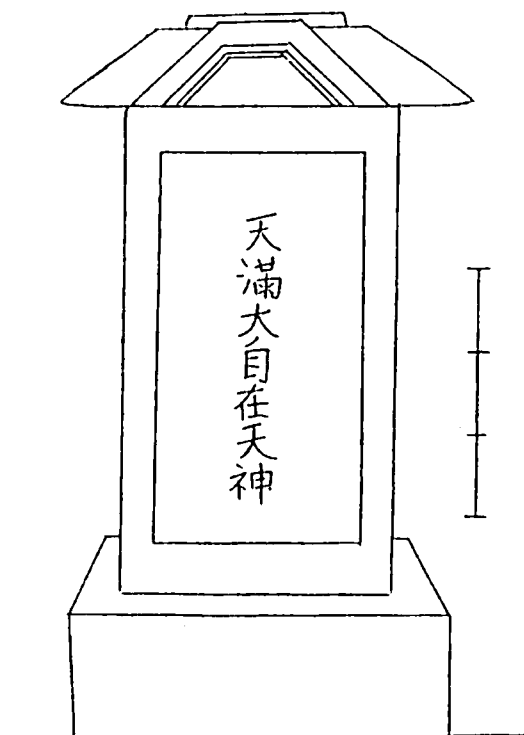
11^{大道}・
土荒神文字塔

川原家〔大道一八四〕路傍



13^{大道}・
天神文字塔

八坂神社



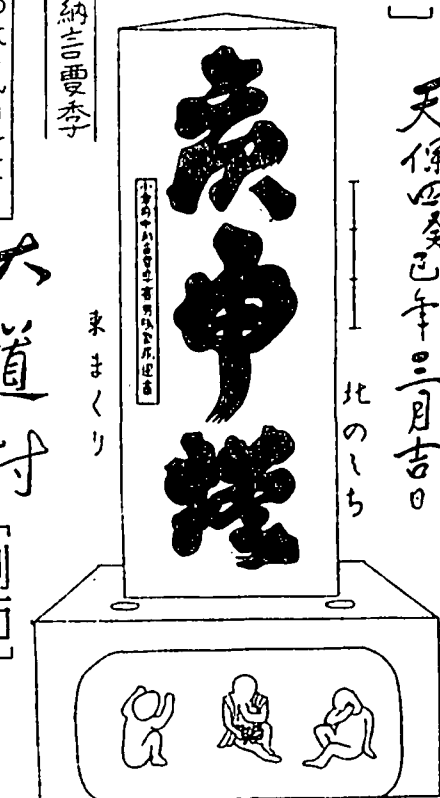
12^{大道}・
道標付き文字庚申塔

八坂神社そば路傍

〔側面〕

天保四癸巳年三月吉日

北のいち



小倉前中納言豊季

東まくり

寛男勝紫永退書

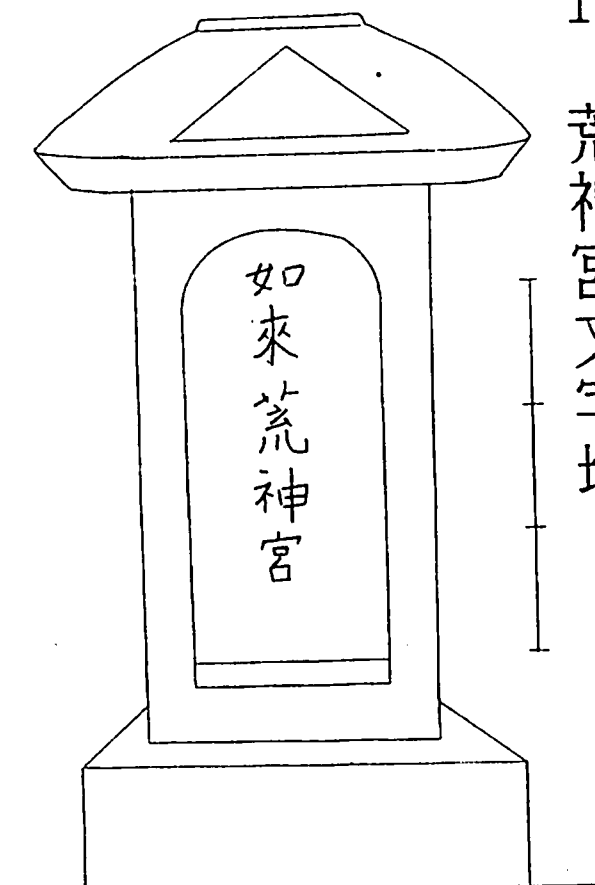
大道村

〔側面〕

南いふつき

14^{大道}・
荒神宮文字塔

八坂神社



15^{大道}

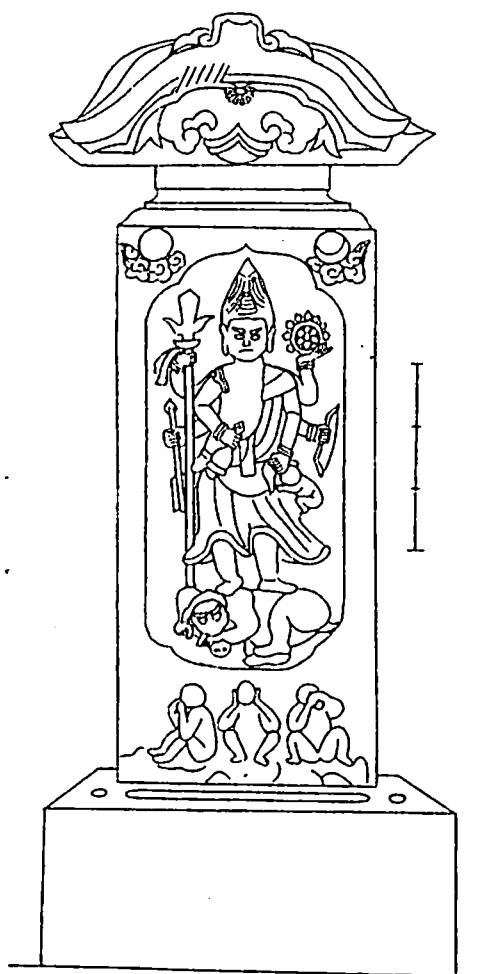
觀音菩薩像



八坂家〔大道二二二〕

16^{大道}

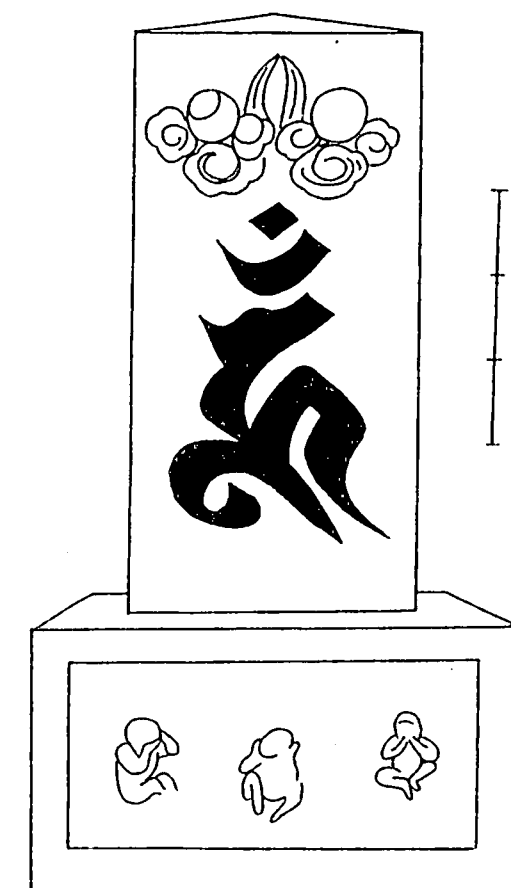
青面金剛像庚申塔



八坂家〔大道二二二〕

17^{大道}

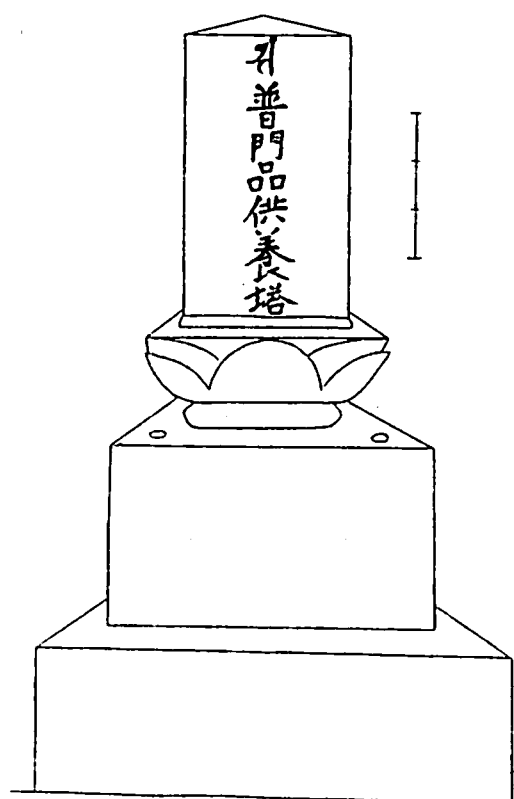
梵字庚申塔



川島家〔大道二二二路傍〕

18^{大道}

普門品供養塔



小林家〔大道二四〕

23^{大道}

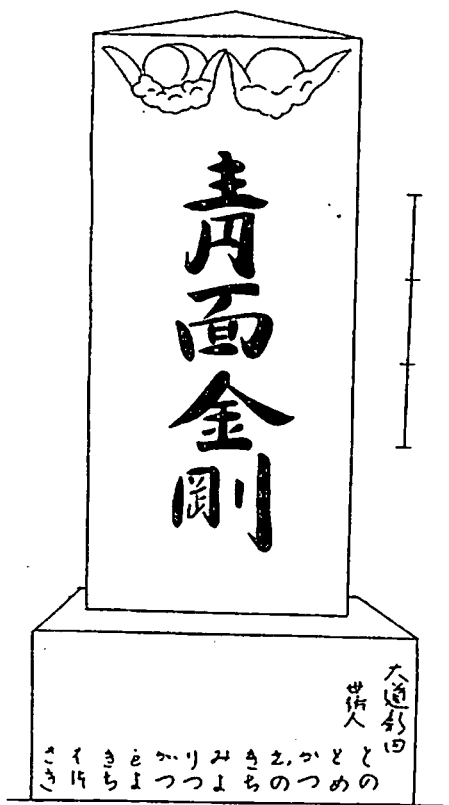
文字庚申塔



大道新田稻荷神社

24^{大道}

文字庚申塔



大道新田稻荷神社

25^{大道}

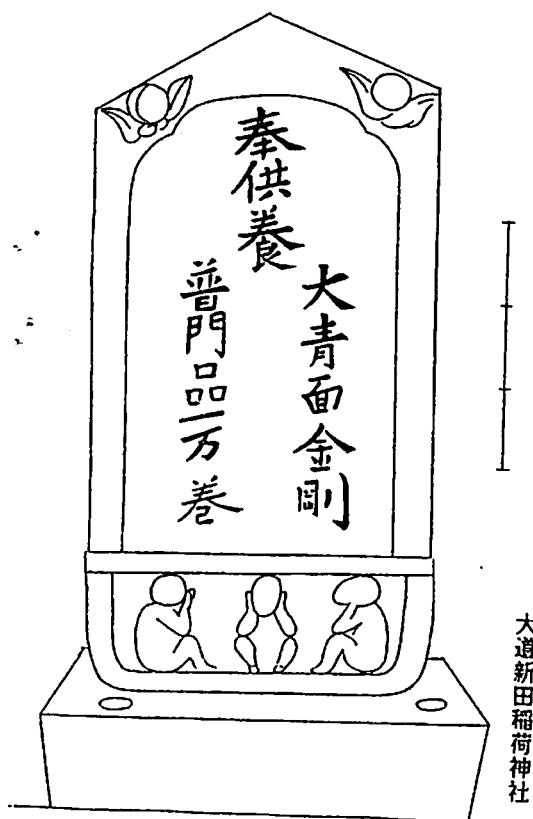
青面金剛像庚申塔



大道新田稻荷神社

26^{大道}

文字庚申・普門品供養塔

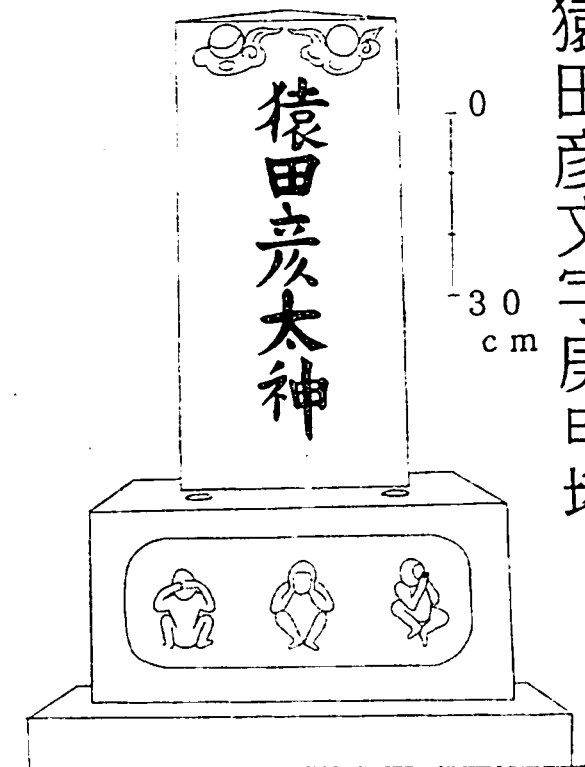


大道新田稻荷神社

1. 大竹

猿田彦文字庚申塔

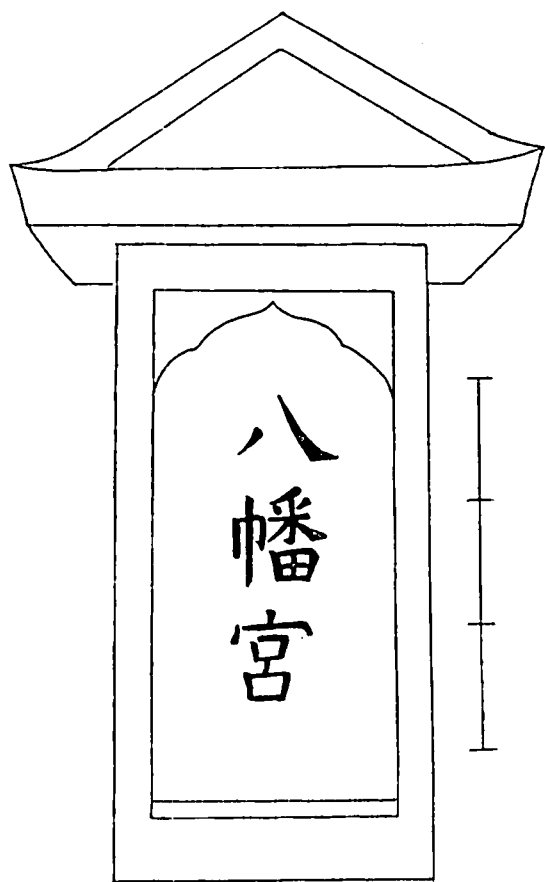
大竹香取神社



2. 大竹

八幡宮文字塔

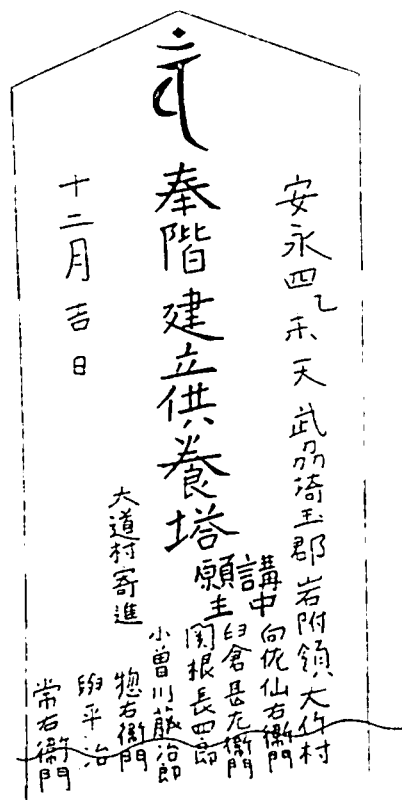
大竹香取神社



3. 大竹

石段供養塔

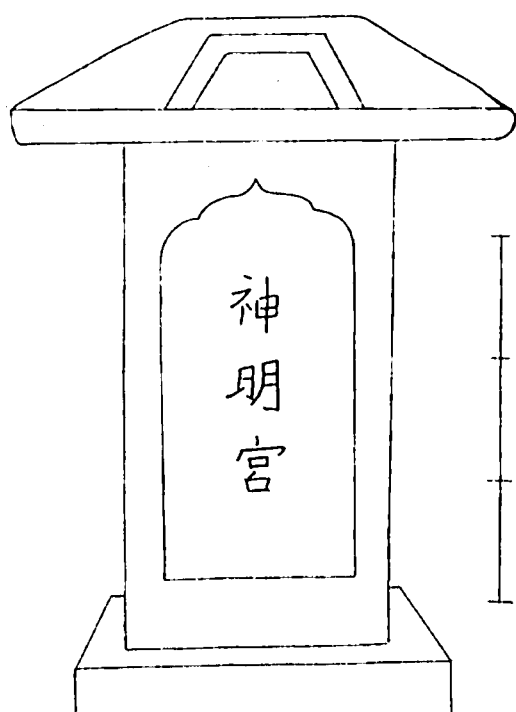
大竹香取神社



4. 大竹

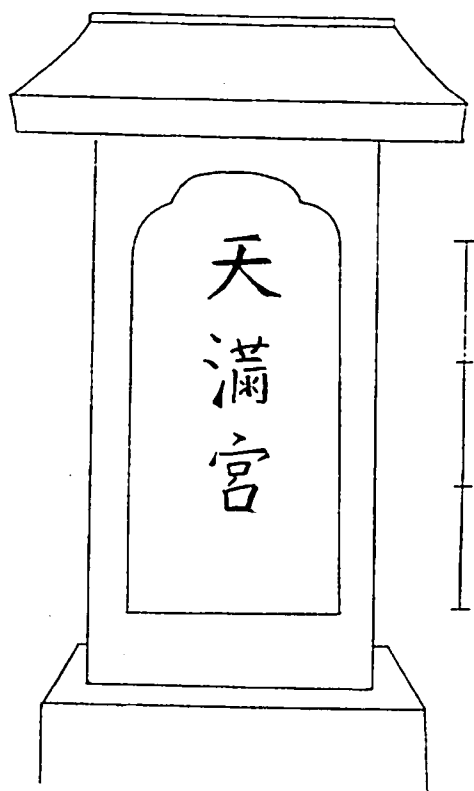
神明宮文字塔

大竹香取神社



5. 大竹

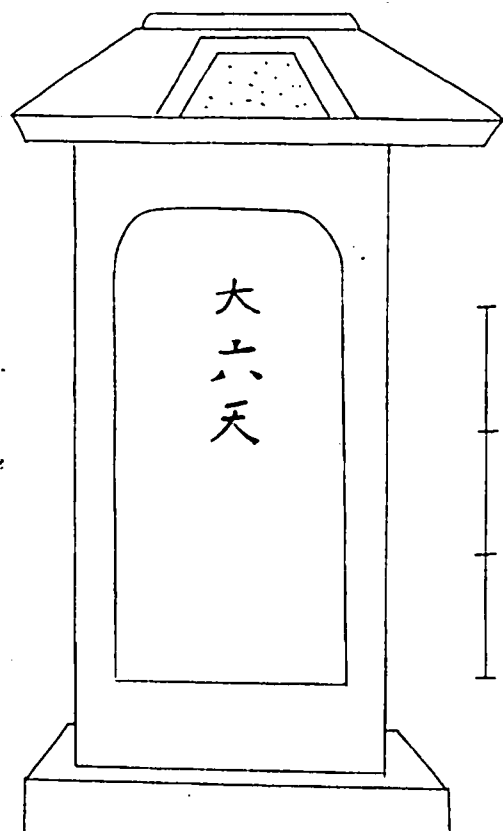
天満宮文字塔



大竹香取神社

6. 大竹

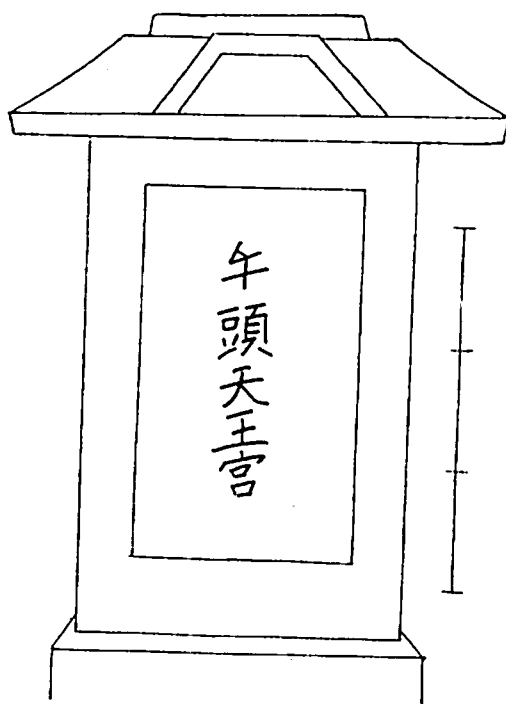
第六天文字塔



大竹香取神社

7. 大竹

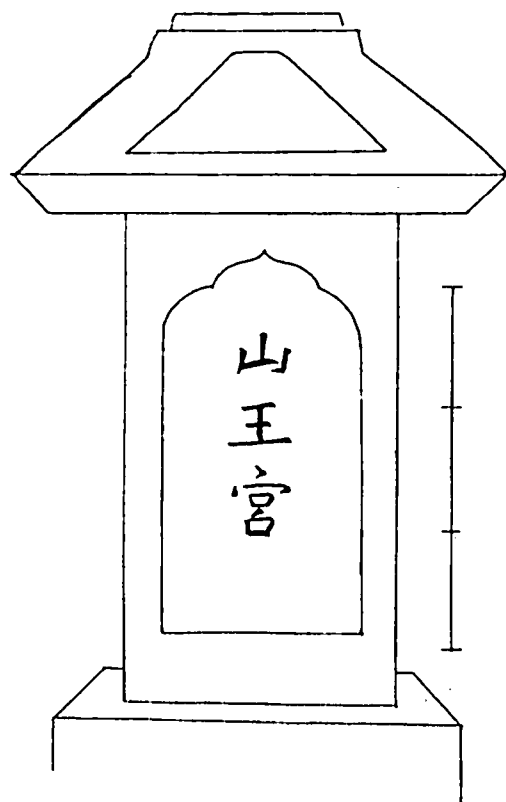
牛頭天王文字塔



大竹香取神社

8. 大竹

山王宮文字塔

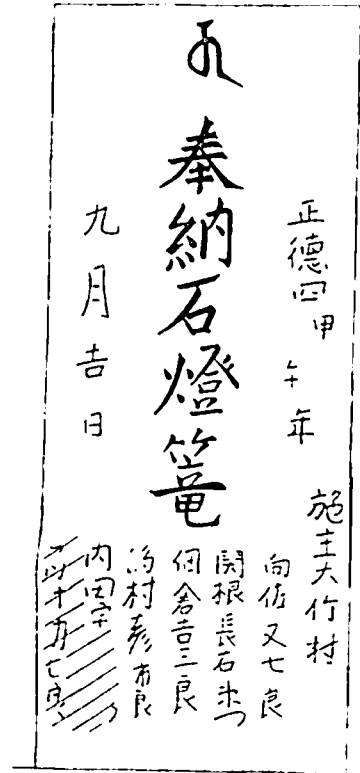


大竹香取神社

9^{大竹}

石灯籠供養塔

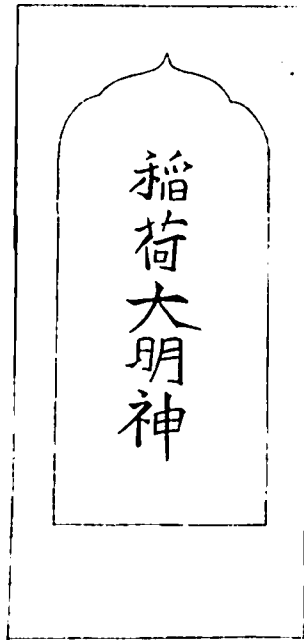
大竹香取神社



10^{大竹}

稻荷大明神文字塔

大竹香取神社



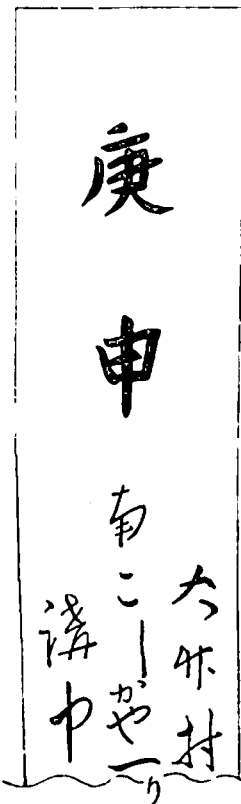
11^{大竹}

道標付き文字庚申塔

東養寺(太子堂)

〔側面〕

為安政三年
辰四月吉日
東
かすうへり



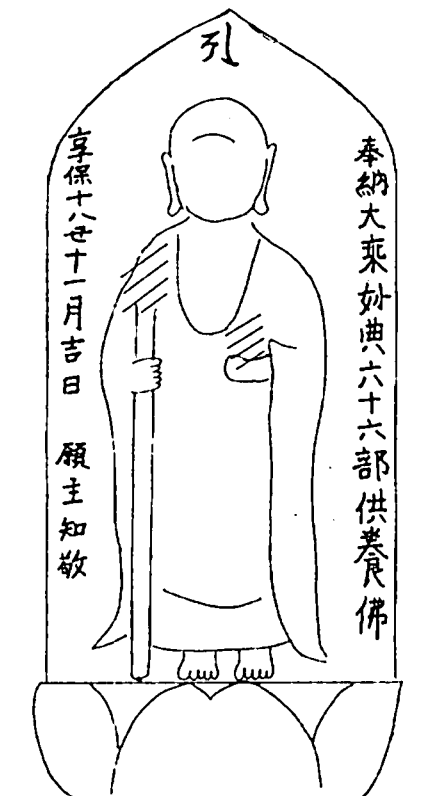
〔側面〕

氏加増五郎
先附
西のつぎは
わのミち

12^{大竹}

地蔵像付六十六部回国塔

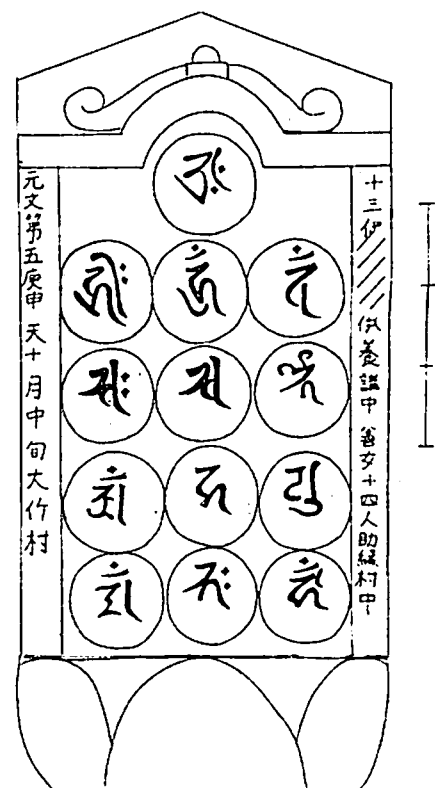
東養寺(太子堂)



13^{本竹}

十三仏梵字塔

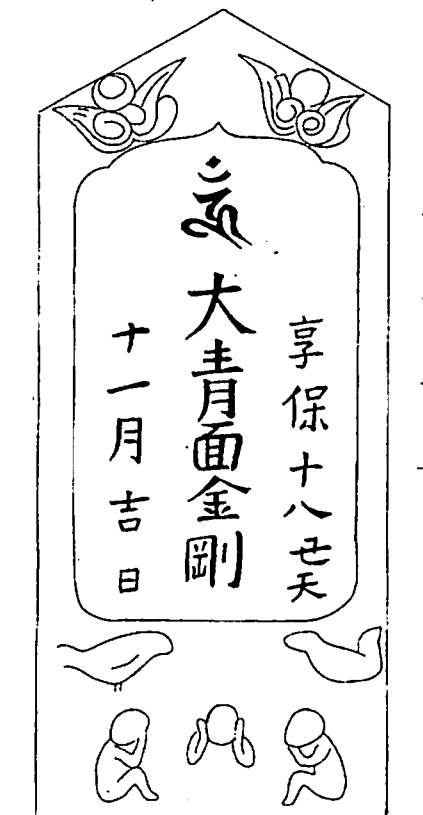
東養寺 (太子堂)



14^{本竹}

文字庚申塔

東養寺 (太子堂)



15^{本竹}

一石六地藏菩薩像

東養寺 (太子堂)



16^{本竹}

青面金剛像庚申塔

東養寺 (太子堂)



17^{本竹}

青面金剛像庚申塔

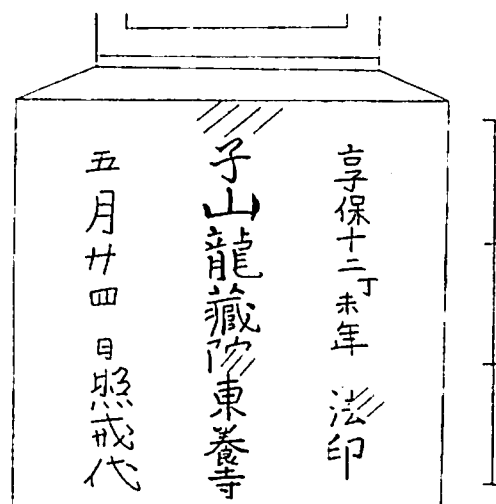
東養寺（太子堂）



19^{本竹}

寺院名文字入り石塔

東養寺（太子堂）



（上段の石塔の図は
下段の石塔とは
別物なので省略）

18^{本竹}

青面金剛像庚申塔

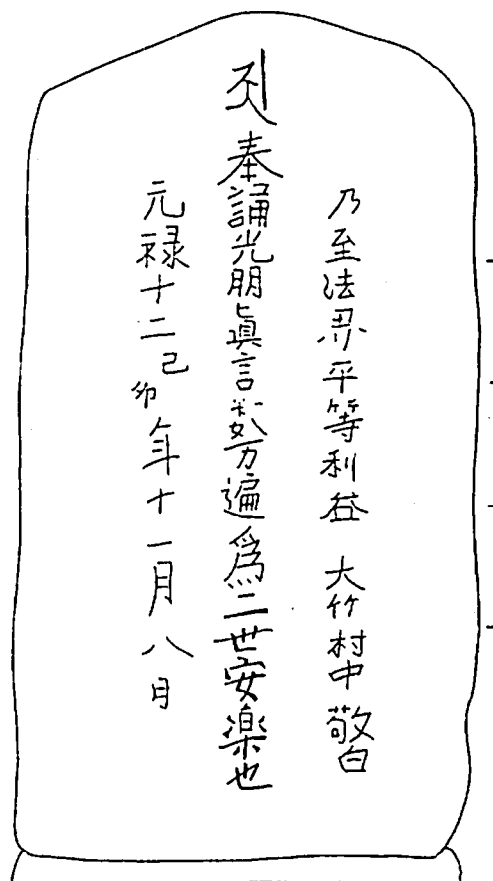
東養寺（太子堂）



20^{本竹}

光明真言供養塔

東養寺（太子堂）

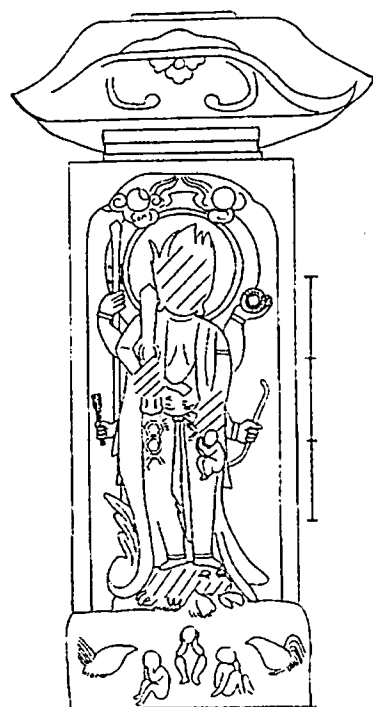


乃至法界平等利益 大竹村中敬白
元禄十二己卯年十一月八月
孔奉誦光明真言文殊遍為二世安樂也

21^{大竹}

青面金剛像庚申塔

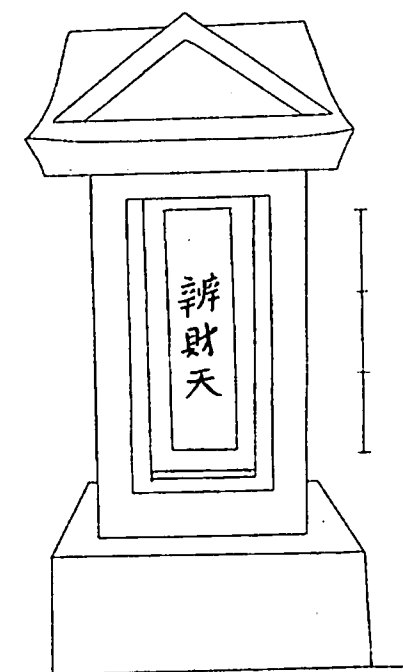
東養寺（太子堂）



23^{大竹}

弁財天文字塔

向佐家「大竹一五三」邸内



22^{大竹}

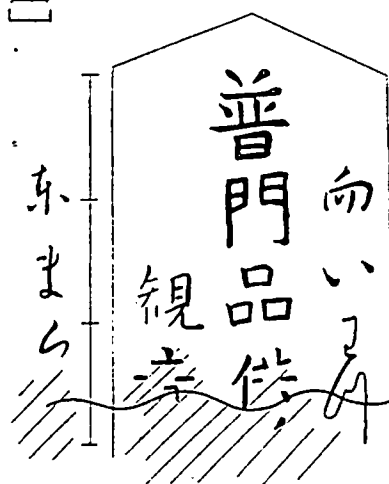
道標付き普門品供養塔

大袋公民館そば

〔側面〕

文化八末八月吉日
南こーりや

〔側面〕



24^{大竹}

「北向き地蔵」石仏

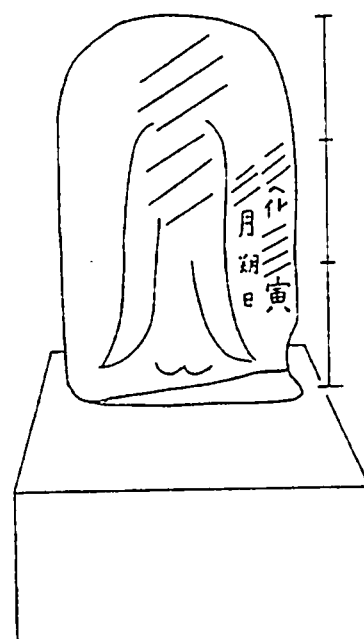
島村家「大竹四三八」北東角地



25^{大竹}

地蔵菩薩像

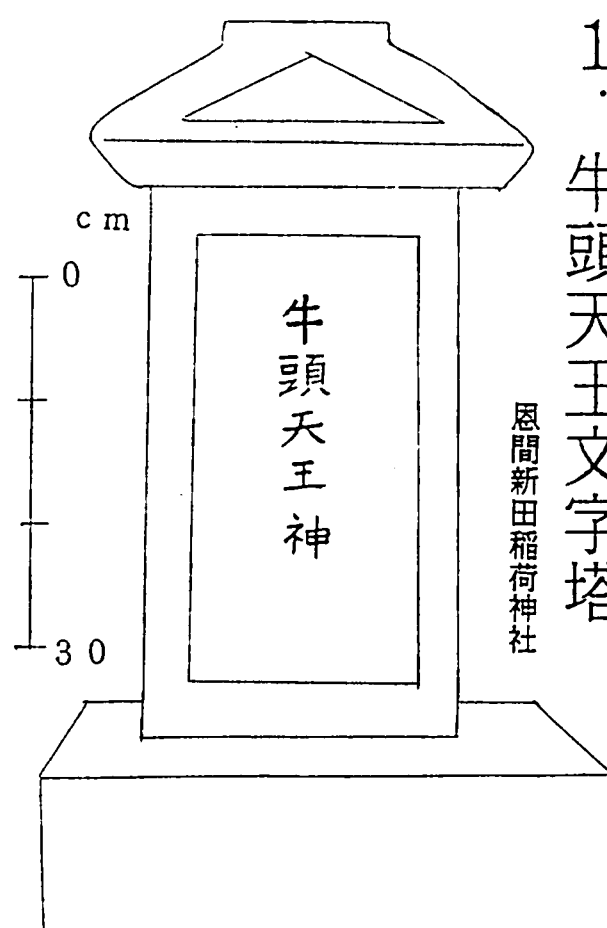
武藤家〔大竹六七七〕そば路傍



1^{恩間}

牛頭天王文字塔

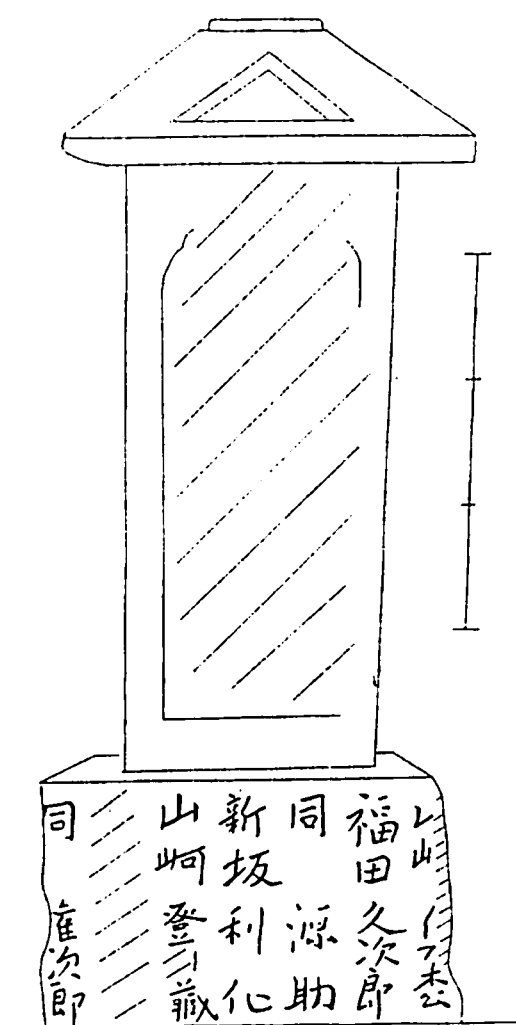
恩間新田稻荷神社



2^{恩間}

天神文字塔

恩間新田稻荷神社



旧三野宮村の石仏

(1) 一乗院

山号は稲荷山という。参道入り口付近の北西側に稲荷社があるのはそのためである。

また慶長年間に建立された神奈川御殿の解体木材が元禄年間に末田の金剛院に移り、幕末に一乗院が火災焼失すると金剛院に使用されていた神奈川御殿の解体木材がさらに一乗院本堂の再建のために贈与された。現在、旧本堂にかわって新本堂が建立されたが、その新本堂内に神奈川御殿で使用された江戸初期の建具、一枚板戸や欄間が展示されている。

1. 不動三尊像 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 三野宮・一乗院入口付近の不動堂
石塔型式 浮彫り型 (南西向き・高さは中)
年 号 文久元年 (一八六一)

〔左側面〕

〔台石〕

文久元 辛酉年
九月吉日

〔正面〕

〔台石〕

願主

(不動明王像) (二童子像)

三野宮村中

〔右側面〕

〔台石〕

世 惣治郎
話 彦治郎
新 奥治郎
助 富五郎

※不動明王と制多迦童子の頭髪に赤色が塗られていた痕跡がある。二童子を着色する場合、袴廻廻 (こんがら) は白、制多迦は赤である。
※本堂向かって右側の入口付近には「故山口半兵衛先生之碑」
(大正十一年) が、左側には「故埼玉県巡査田口久五郎之墓」
(明治二十四年) の石塔がある。

2. 白山権現文字塔 (『越谷市金石資料集』白山二番)

所在地 三野宮・一乗院入口付近の稲荷社
石塔型式 上部丸型 (南西向き・高さは低)
年 号 嘉永三年 (一八五〇)

〔左側面〕

嘉永三戌年
八月吉日

〔正面〕

白山大権現

〔右側面〕 (不明)

※白山は加賀国 (石川県) の国境にある修験者の修行する山で、白山講を組織して白山への信仰登山が行われたりした。

3. 子権現文字塔 (『越谷市金石資料集』その他一四番)

所在地 三野宮・一乗院入口付近の稲荷社
石塔型式 角型 (南西向き・高さは低)
年 号 不詳

〔左側面〕

(解説不能)

〔正面〕

(梵字バク) 子聖大権現社

〔右側面〕

岩付三之宮村
一乗院有照

※子聖大権現 (ねのひじりだいこんげん) は『子の権現』とか『子の神』
といい、紀伊国阿氏長者が天長九年 (八三二) 子歳の十月子日子刻に
生んだ子という。

4. 背面金剛像庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申九二番)
所在地 三野宮・一乗院の参道
石塔型式 駒型 (南東向き・高さは高)
年 号 享保十六年 (一七三一)

〔正面〕

奉造大背面金剛

(梵字ゴ) (日月) (背面金剛像) (鬼) (二鶏) (三猿)

享保十六 辛
亥十一月一日三野宮村中

六

〔裏面〕

〔梵字タラーク〕

又云若人作塔或土石
水金銀赤銅等此法要
安置其中機安置已其
塔即為七宝所成上下
階陛露盤傘蓋鈴鐺網
綴純為七宝其塔四方
如來形相亦復如是則
一切如來神力所持乃
至一切諸天守衛供養

※宝篋印塔は、例えば梵字のキリークは西に向き、アクは北に向くが、
この宝篋印塔では決まり通りの向きに設置されていない。
※歴代住職墓地に元禄四年（一六九一）九月三日没の法印賢誓の五輪塔
の墓石がある。

13・馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』馬頭一番）
所在地 三野宮・一乗院の墓地入口
石塔型式 駒型（南西向き・高さは高）
年 号 享保十五年（一七三〇）

〔正面〕

奉造立馬頭観世音像一軀日参三百箇日供養成就処

〔台石〕

大野嶋
増長村
大口村
大谷村
大戸村
須賀村
大森村
三ノ宮村
日参往来施主村名
長宮村
増戸村
増富村
下蛭田村
花堤村（花積村）
慈恩寺
平野村

（梵字カン）（馬頭観音像）

享保十五庚戌天八月十八日 本願主 善覚

14・丸彫り地蔵菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 三野宮・一乗院の墓地入口
石塔型式 丸彫り型（南西向き・超高）
年 号 天保十五年（一八四四）

〔左側面〕

〔台石の左側面〕
願主 超先信女
天保十五 辰 歳七月吉日
惣成 施主中

〔正面〕

〔台石の正面〕

若三途にあはんもの此ほさつ（菩薩）に
□□（ある）て軀を見名を聞シの人天
に生し或ハ浄土□□（に）生セハ三善
道に在て其名を聞□□の現の
果報を得□後ハ仏土に生云

（地蔵菩薩像）

経曰

〔左側面〕

〔台石の右側面〕

廿五世
當院 法印快舜代
葉山氏
向佐氏

※さらに向かって左側隣には年代不詳の六地蔵石幢（『越谷市金石資料集』に掲載なし）がある。

裏面は幢幡を持つ地蔵、左側面は天蓋を持つ地蔵、左側の正面は合掌
する地蔵、右側の正面は柄香炉を持つ地蔵菩薩像、右側面は数珠を持
つ地蔵、裏面は宝珠と錫杖を持つ地蔵をそれぞれ表している。

15・光明真言供養塔（『越谷市金石資料集』真言一二番）
所在地 三野宮・一乗院の本堂前の無縁仏群

石塔型式 笠付角型（南東向き・高さは高）
年 号 天保十年（一八三九）

〔左側面〕

天保十己亥年九月穀旦
三ノ宮村
天長地久 蒼生安居
五風十雨 穀米豊登

〔正面台石〕

森田治良
櫻本林 藏
金子清五良
根岸五 藏
尾崎沢右工門
倉橋八左工門
坂巻左工門
向佐仙之助

中

てゆみそ
つりなで

もろともに
蓮の雲や
夕もみち

一学

※梵字は十三仏を表す梵字(種子)である。また、『蓮』は「はちす」と読む。
 「タもみち」は「タもみち」と読む。
 ※この左隣(向かって右側)に明治二十七年三月建立の「普門品十萬巻供養塔」がある

16. 弘法大師一千年御忌供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）所在地 三野宮・一乗院の本堂前の無縁仏群石塔型式 角型（南東向き・高さは高）年 号 天保五年（二八三四）

(梵字・大日如來の眞言「ア・ビ・ラ・ウン・ケン」)

弘法大師一千年御忌供養塔

天下泰平五穀成就

天保五^甲午三月二十一日一乘密院廿四世廣賢代

(2) 三野宮香取神社

三野宮の香取神社は三野宮村の鎮守で、神社の境内には三基の力石が残されている。うち二基は日本一の力持ちとして知られる向佐卯之助が持ち上げた嘉永元年（一八四八）の「奉納 大磐石三之宮卯之助持之」と嘉永二年の「奉納 白龍石 三之宮卯之助持之」である。

この神社前の元荒川と平行に走る道は、古老によると昔は元荒川の土手道であり、現在の土手道「県道大野島・越谷線」は元荒川の左岸の河原の中に作った中土手であるとの言い伝えがあるという。

17. 天神像（『越谷市金石資料集』天神一七番）

石塔型式 祠型（南東向き・高さは中）
年 号 安政五年（一八五八）

「左側の台石」

葦子中

榎本市 〇助
向佐安 蔵
根岸藤兵衛
鈴木城四郎
須賀八 内
向佐そ 上
森田幸吉

〔正面の台石〕
三野宮村

(天神像)

同	同	同	同	坂巻巳之助
同	熊多郎	佐重郎	重次郎	平内
富士右工門				安兵衛
				森田佐五右工門
				金子勇吉
				同常右工門
				森田庄
				坂巻文
				金子由
				坂巻助右工門
				同重次郎
				同佐重郎
				同熊多郎
				同富士右工門

〔右側面〕

〔右側の台石〕
大森村
小沢源 助
同 弥五郎

神垣に
春をとりなりや

梅の華
一学

尾崎幸三郎
森田多吉
向佐多次郎
同 卯之助

※蓮子の中に『向佐卯之助』の名前が刻まれているが、これはこの頃活躍した日本一の力持ちの三之宮卯之助を指すものと思われる。

18・妙見菩薩・筑波山両権現文字塔（『越谷市金石資料集』妙見二番）
所在地 三野宮・香取神社
石塔型式 笠付角型（南東向き・高さは高）
年 号 嘉永三年（一八五〇）

〔左側面〕

嘉永三 戌 年九月吉日

天下泰平国土安穩

〔正面〕

主願
榎本市良左エ門
坂巻幸次郎
同 文右エ門
森田勘 蔵
根岸百 杉

秩父

妙 見 星 神

筑波山両大権現

永々々代参

〔右側面〕

熊野宮山敷登畝五歩七厘

寄附之

榎本善右エ門

※妙見信仰とは、北斗七星（または北極星）を信仰の対象とする中国の北辰信仰と仏教とが習合したものである。主に秩父氏や千葉氏などが厚く信仰していた。

※筑波山両権現とは筑波山の西の峰にある男体（イザナギのみこと）と東の峰にある女体（イザナミのみこと）の両方の権現様（二神）をさす。

19・水神社文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 三野宮・香取神社
石塔型式 駒型（南東向き・高さは高）
年 号 不詳

〔正面〕
水 神 社

〔右側面〕

セ 坂巻榮 蔵
ハ 金子清五郎
三野宮村中 人 坂巻孫次郎

20・稻荷大明神文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮・香取神社
石塔型式 駒型（南東向き・高さは低）
年 号 天保九年（一八三八）

〔正面〕

天保九戌二月初午

正一位稻荷大明神

〔右側面〕

坂巻吉蔵

21・稻荷大明神文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮・香取神社
石塔型式 角柱型（南東向き・高さは中）
年 号 元文五年（一七四〇）

〔左側面〕

元文五 庚 申二月吉祥日

〔正面〕
稻荷大明神

〔右側面〕

奉納石燈籠

三ノ宮村
大道村
大竹村
恩間村
大森村

※さらに南西側の隣に二基の不明（年代不詳）の石塔が対になって安置されている。もとは三野宮橋そばの倉橋家（三野宮三五一番地）東側路傍にあった。一乗院と倉橋家前の間を金子酒店（三野宮三九七番地）側に弓なりに曲がったかつての道を残して真つすぐな道にしたときに、その新道路にかかるために移転してきたものである。

22・熊野三山文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 三野宮・香取神社敷地内の祠の中
石塔型式 祠型（南東向き・高さは中）
年 号 明和二年（一七六五）

〔左側面〕

明和二年

〔正面〕

熊野三社権現

〔右側面〕

三月吉日

※熊野三社（三山）とは、和歌山県にある本宮の熊野坐（にます）神社
と新宮の熊野速玉（はやたま）神社と那智の熊野那智神社をさす。

23・稻荷大明神文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮・香取神社の北側奥の祠

石塔型式 祠型（南西向き・高さは中）

年 号 寛政四年（一七九二）

〔左側面〕

寛政四年二月吉日

〔正面〕

稻荷大明神

〔右側面〕

施主

新蔵

（30）坂巻家（三野宮二四六一二）南西の路傍

24・地藏像付き六十六部回國塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮・坂巻家（三野宮二四六一二）南西三十以先の路傍

石塔型式 舟型（南西向き・高さは中）

年 号 延享元年（一七四四）

〔正面〕

延享元年甲子天

奉供養大乘妙典六十六部回國所願成就庵

六月穀旦

（錫杖と宝珠を持つ）地藏菩薩像

〔萬人講〕

玄心妙弥

善好沙弥

秋好信女

享保十九寅

三月十四日

享保十三酉

十月十六日

本願主徹心敬白

※享保十三は申年

25・背面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一九七番）
所在地 三野宮・坂巻家（三野宮二四六一二）南西三十以先の路傍
石塔型式 笠付角型（南西向き・高さは中）
年 号 寛政十一年（一七九九）

〔左側面〕

〔左側台石〕

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

寛政十一年己未年□月吉祥□

〔正面〕

（背面金剛像）（鬼）（三鶏）

〔正面台石〕

（三猿）

世話人 弥助

〔右側面〕

〔右側台石〕

おしほ

おいつ

おりよ

おりん

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

おいち

〔右側面〕

八月吉日

施主

高砂組

(4) 本林田家(三野宮二四八)前の路傍

27・背面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一三四番)
所在地 三野宮・森田家(三野宮二四八番地) 前の路傍
石塔型式 駒型(南西向き・高さは中)
年 号 明和三年(一七六六)

〔正面〕

明和三年 戌天 施主

三ノ宮村

(背面 金剛像)

二月廿九日

森田佐七

28・道標付き銀音菩薩像(『越谷市金石資料集』掲載なし)
所在地 三野宮・森田家(三野宮二四八番地) 前の路傍
石塔型式 駒型(南西向き・高さは低)
年 号 元文五年(一七四〇)

〔正面〕

いわつき道

森田佐五右、門

(正 観 音 菩 薩 像)

元文五 庚

申 八月吉日

〔右側面〕

ちおんじ道

※『金石資料集』では、庚申塔として一〇三番に誤記されている。

(5) 本林田家(三野宮一九四)入口

29・背面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 三野宮・森田家(三野宮一九四番地) 入口
石塔型式 頭部山状角型(南西向き・高さは中)
年 号 天保十年(一八三九)

〔左側面〕

天保十 己 亥年二月吉日

〔正面〕

(日月) (背面金剛像) (鬼) (三猿)

世話人

森田長兵衛

金子久右エ門

向佐五良左エ門

〔右側面〕

三ノ宮村

高砂組中

※三野宮香取神社の北にある向佐家(三野宮二七〇番地)の邸内には、明治四年造立の「無者橋子成久」と刻まれた石塔、明治十二年造立、九十歳唯心の書による「雷電神」文字塔、大正十三年十月に向佐裕四郎氏が造立した「馬頭観世音」文字塔が安置されている。

(6) 本林田家(三野宮二九一)邸内

30・妙見菩薩文字塔(『越谷市金石資料集』妙見一番)
所在地 三野宮・森田家(三野宮二九一番地) 邸内の祠
石塔型式 祠型(西向き・高さは中)
年 号 文政四年(一八二一)

〔左側面〕

文政四巳年九月

〔正面〕

抱卦童子

七十二

妙見大菩薩菩薩

七十二

示卦童子

〔右側面〕

森田勘

※他に、安政四年二月造立の稻荷大明神文字塔(駒型)、昭和九年九月造立の「正一位稻荷、鬼子母神、猿田彦大神」と三人の神様を刻んだ石塔(駒型)も安置されている。
また邸内には「妙見宮」と刻まれた年代不詳の文字塔(角型)がもう一基ある。

※以上の他に森田家前の路傍には、明治二十四年九月十日の馬頭観音文字塔(『金石資料集』馬頭三七番)がある。

(7) 本林田家(三野宮四四七)そば橋脇

31・文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二七八番)
所在地 三野宮・森田家(三野宮四四七)そば須賀用水に架かる橋脇
石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さは中)
年 号 天保十年(一八三九)

〔左側面〕

天保十己亥九月吉日

庚申待十八度供養塔

〔正面〕

32・猿田彦文字庚申塔（「越谷市金石資料集」猿田彦一〇番）
所在地 三野宮・森田家（三野宮四四七）そば須賀用水に架かる橋脇
石塔型式 頭部山状角柱型（東向き・高さは中）
年 号 天保十年（一八三九）

〔左側面〕

天保十己亥九月吉日

〔正面〕

天下泰平

猿田彦大神

国土安穩

〔右側面〕

三ノ宮村講中

〔正面台石〕

尾崎幸久

坂巻文

坂本良

金子孫

坂巻金

同 万右

同 秀左

同 吉左

同 同 基内

同 同 吉藏

同 同 治良

同 同 小五郎

同 同 鈴木新

同 同 木善右

同 同 本治右

同 同 櫻本右

同 同 鈴本右

同 同 同 門

同 同 同 門

同 同 同 門

同 同 同 門

同 同 同 門

同 同 同 門

同 同 同 門

同 同 同 門

33・石橋供養塔（「越谷市金石資料集」普請供養四番）
所在地 三野宮・森田家（三野宮四四七）そば須賀用水に架かる橋脇
石塔型式 上部隅丸角型（東向き・高さは中）
年 号 延享元年（一七四四）
〔正面〕

（梵字力）（地蔵座像）

延享元 甲子 三ノ宮村
奉 供 養 石 橋 講 中
十一月二十四日 橋組二十一人
十六人

（8）榎本家（三野宮一九一二）祭礼地

34・稻荷大明神文字塔（「越谷市金石資料集」に掲載なし）
所在地 三野宮（新田）・榎本家（三野宮一九一二番地）そば祭祀地
石塔型式 特殊型（南西向き・高さは中）
年 号 文政八年（一八二五）

〔左側面〕

榎本

文政八酉二月吉日

〔正面〕

稻荷大明神

〔右側面〕

幾歳や

五穀の種子を 紫山

稲祭り

※『幾歳』は「いくとせ」、「種子」は「たね」と読む。

※この石塔の向かって右隣に「元禄十四乙十一月吉日」（左側面）造立の不明の石塔がある。右側面には「三宮村 施主 榎本次兵衛」と刻まれている。

35・牛頭天王文字塔（「越谷市金石資料集」牛頭天王五番）
所在地 三野宮（新田）・榎本家（三野宮一九一二番地）そば
石塔型式 角型（北東向き・高さは低） ※上部に笠が載せてある
年 号 寛政九年（一七九七）

〔左側面〕

寛政九丁巳十月吉日

〔正面〕

牛頭

〔右側面〕

願主

榎

※牛頭天王とは、八坂神社（祇園社）の神で、紫菱鳴尊（すさのおのみこと）をさしている。

36・土公神文字塔（『越谷市金石資料集』になし）

所在地 三野宮（新田）・榎本家（三野宮一九七二番地）そば
石塔型式 角型（北東向き・高さは低） ※上部に笠が載せてある
年 号 嘉永五年（一八五二）

〔左側面〕

嘉永五 壬子年四月
榎本與市郎

〔正面〕

土 公 神

※土公神（どくうじん・どくじん・どぐじん）とは、陰陽道で、土をつかさどる神。土公（どこう）ともいう。この神が土中にいる時期に、例えば、春はカマドに、夏は門に、秋は井に、冬は庭にいて、その場所を動かせば祟りがあるという。また、この神の遊行の方角に向かって土木工事を行うことも忌む。屋敷を守る神様といえよう。

（9） 須賀賀家（三野宮一九七二）前の新方川

37・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二八二番）

所在地 三野宮（新田）・須賀家（三野宮一九七二番地）前の新方川
石塔型式 角型（北西向き・高さは低）
年 号 弘化二年（一八四五）

〔左側面〕

弘化二 己年十一月吉

〔正面〕

（△金）

奉納青面

〔右側面〕

榎本

38・石橋供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮（新田）・須賀家（三野宮一九七二番地）前の新方川
石塔型式 上部隅丸角型（南西向き・高さは中）
年 号 明和三年（一七六六）

〔正面〕

（地蔵座像）石橋造立供養塔 三ノ宮村々中
並當橋組中

〔右側面〕

明和三丙戌歳正月吉日

39・地蔵菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮（新田）・須賀家（三野宮一九七二番地）前の新方川
石塔型式 上部隅丸角型（南西向き・高さは中）
年 号 文化十三年（一八一六）

〔左側面〕

寛保四子年造立及石
文化十三年三月再廻

世 榎本市
話 須賀長
人 倉橋治

〔正面〕

（地蔵菩薩立像）
このみちへのこ
花の世や

※は「草」。

〔右側面〕

尾崎幸之進

坂巻文八

向佐良左工門

森田忠右工門 坂巻幸右
同 平兵衛 同 茂右工門
同 喜七 同 向佐十五郎
須賀長 蔵 倉橋八左工門
根岸権左工門 山口与四良

40・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔九八番）

所在地 三野宮（新田）・須賀家（三野宮一九七二番地）前の新方川
石塔型式 駒型（南西向き・高さは中）
年 号 元文四年（一七三九）

〔左側面〕

奉建立庚申為二世安楽也

藤左工門
弥兵衛
弥七良
平四郎
金右工門

〔正面〕

（日月）（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）

〔右側面〕

元文四 己未十一月十七日

長兵衛
源四良
又四良
次兵衛
久兵衛
三野宮村

41・道標石塔（『越谷市金石資料集』道標九番）
所在地 三野宮（新田）・須賀家（三野宮一九七一番地）前の新方川
石塔型式 駒型（南西向き・高さは低）
年 号 嘉永五年（一八五二）

〔左側面〕

嘉永五年八月吉辰

あき

〔正面〕

東かすかべ一り半

六十圓

落葉にも

西のしま廿丁

近□（よ）る頃や

西しおんじ二り

手引石

〔右側面〕

北の道

坂巻栄次郎
榎本与市郎
須賀松九郎
倉橋次郎

※東は粕壁、西は野島、西は慈恩寺、北は野道を示している手引き石
（道しるべの石塔）である。

※石橋そばにあるこれらの石仏・石塔はもとは別の所にあった。現在の
新方川（千間堀）は、かつてはここより道路を南に約七十五メートル
程いった地点に流れていた。そこに橋が架かっていて、その橋のふも
とにこれらの石仏・石塔があったという。かつての橋のそばにあった
石仏・石塔は須賀家によって現在地に移されたのである。

42・稲荷大明神文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮（新田）・須賀家（三野宮一九七一）邸内

石塔型式 駒型（南東向き・高さは中）

年 号 文化四年（一八〇七）

〔正面〕

文化四卯二月吉日

稲荷大明神

願主須賀長左エ門

旧大道村の石仏

（1）竹屋商店店周辺路傍

竹屋商店北東隣に貞治六年（一三六七）の「七字題目板碑」がある。

1・地藏菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 三野宮・栗原家（竹屋商店、大道三五番地）北東の村境路傍
石塔型式 舟型（東向き・高さは低）
年 号 安永五年（一七七六）

〔正面〕

幻空童子 安永五 甲 五月廿八日

（地 蔵 菩 薩 像）

秋蔵童子 安永五 甲 七月廿九日

※川島屋店（大道三番地）の北側の路傍にあるが、栗原家（竹屋商店、大道三五番地）所有の敷地（三野宮）に建てられている。

2・道標付き普門品供養塔（『越谷市金石資料集』普門品一三番）

所在地 大道・栗原家（竹屋商店、大道三五番地）北東元荒川側路傍
石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さは中）
年 号 文化六年（一八〇九）

〔左側面〕

こしがや道

〔正面〕

（梵字サ） 文化六己巳年

（梵字ニ） 奉読誦普門品五万巻供養塔

（梵字サク） 三月 吉祥日

〔右側面〕

まくり二十丁

大道村 講中

3・道標石塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大道・栗原家（竹屋商店、大道三五番地）北東元荒川側路傍
石塔型式 駒型（東向き・高さは中）
年 号 不詳

〔左側面〕

こしがやみち

〔正面〕

（一仏座像）ちおんじみ□（ち）

〔右側面〕

まくりみち

(2) 『寮』(大日堂)の墓地

地元では『寮』と呼ばれる、十一面観音像を安置する真言宗のお堂があり、以前はここに古老が集まって念仏などを唱えていた。この『寮』を『大日堂』とも呼んでいた。

4. 地蔵像付き墓塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大道・『寮』(大日堂)の墓地

石塔型式 駒型(北東向き・高さは中)

年号 寛保三年(一七四三)

〔正面〕

寛保三年 六月廿一日

道印清信居士

延享元年 天

大道

(地蔵座像) (梵字サ)

妙温清信居士

六月十六日

傳次

妙印清信居士

※この石塔は、夫の没年は刻まれているが、妻の没年が刻まれている。母が生前の時に息子の傳次が姉妹の妙音清信女のために前年に亡くなった父親の道印清信士と共に二人の没年を刻んで供養したものであろう。

(2) 上手組管理の香取社

元は、北々東へ三十メートル程に奥まった地点にあった。大正年間に参拝しやすいようにと、道路側の現在地に移転したのである。

5. 背面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大道・上手組(わでぐみ)管理の香取社

石塔型式 頭部山状角柱型(南西向き・高さは高)

年号 文政三年(一八二〇)

〔左側面〕

〔左側台石〕
川嶋庄右エ門

栗原政之助

同 新蔵

同 平左エ門

同 庄蔵

同 幸蔵

同 八蔵

同 徳左エ門

栗原弥次右エ門

鈴木紋右エ門

同 儀左エ門

同 与四郎

大武忠蔵

小林弥右エ門

青面金剛

十二月吉日

文政三 庚辰年

〔正面〕

(日月) (背面金剛像) (鬼)(三猿)

〔右側面〕

庚申 塔

大道村 講中

(4) 鈴木家(大道六五)路傍傍

6. 靈神墓塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大道・鈴木家(大道六五)路傍

石塔型式 角型(南西向き・高さは中)

年号 弘化三年(一八四六)

〔左側面〕

弘化三年 丙午年七月廿五日

〔正面〕

政英彦 靈神

※靈神とは、一般には靈験あらたかな神という意味で、明神の位より低い。ここでは、亡くなられた人の神号「政英彦」の下に「靈神」の語を付けて、「政英彦」を神として敬ったものである。もしかしたら、京都の吉田神社の卜部氏に願い出て付けたのかもしれない。

〔正面台石〕

栗原勘次良

鈴木綱右エ門

川嶋平右エ門

同 宇右エ門

栗原留右エ門

中村政右エ門

栗原半六

同 金口

川嶋伊之助

小林要蔵

同 半三良

同 要右エ門

河原喜右エ門

栗原佐左エ門

〔右側台石〕

同 金右エ門

同 吉右エ門

川嶋兵左エ門

同 勇蔵

栗原梅七

同 金兵衛

鈴木藤吉

川嶋文右エ門

(5) 鈴木家(大道一〇八)邸内

7. 荒神文字塔(『越谷市金石資料集』荒神二番)

所在地 大道・鈴木家(大道一〇八)邸内

石塔型式 祠型(南西向き・高さは中)

年号 享和二年(一八〇二)

〔左側面〕

享和二年 戌年

〔正面〕

荒神 宮

〔右側面〕

九月吉 □

※荒神(こうじん)とは、荒々しくて祟りの多い神様とされ、カマドを守る神とされる三宝荒神(さんぼうこうじん)をさすと思われる。

※なお、大道一〇八の鈴木家の道路の反対側に、大道一〇四の鈴木家がある。この鈴木家の北東隣には今はなき稲荷社があった。

その稲荷神社に通じるかつての道は、大道八四の栗原家の西側脇より鈴木家と栗原家の敷地の境に沿っていた。

かつての稲荷神社の名残は、現在、大道集会所の南側にある祠である。

(6) 川島家(大道一六一)そば用水路

8. 馬頭観音文字塔(『越谷市金石資料集』馬頭二五番)

所在地 大道・川島家(大道一六一)そば用水路田圃側

石塔型式 駒型(東向き・高さは中)

年号 天保十五年(一八四四)

〔左側面〕

天保十五年正月吉日

〔正面〕

馬頭観世世音

〔右側面〕

大道村

川嶋平左門

※ここにはこの他に、明治廿六年九月に川島忠蔵によって造立した馬頭観音文字塔(『馬頭観世音』と刻まれている)もある。互いに向き合っている。

(7) 大道香取神社

9. 猿田彦文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申四番)

所在地 大道・香取神社

石塔型式 頭部山状角型(北西向き・高さは高)

年号 文化十二年(一八一五)

〔左側面〕

〔正面台石〕

村中安公主

〔正面〕

〔正面台石〕

およね おつゆ おさよ おきよ おきち おとめ おりん おとし おひめ おまつ おもよ おおん およし おおい おいく

(日月) 猿田彦大神

(三猿)

川嶋平左門 栗原長八 栗原要蔵 栗原半六 栗原初右門 栗原伝次 栗原権兵衛 川嶋勇蔵 同 藤左門 同 忠次良 同 栗原政五良 同 川嶋新蔵 同 庄蔵 同 幸蔵 同 徳左門 同 栗原弥次右門 同 鈴木政右門 同 儀左門

〔右側面〕

〔右側台石〕

文化十二乙亥三月吉日

小林弥右エ門
栗原七五良
鈴木長左エ門
同 宇右エ門
栗原富右エ門
同 半右エ門
同 喜左エ門
同 与左エ門
同 叶次
同 長右エ門
川原次助
同 伊助
栗原次右エ門
鈴木伊右エ門
栗原楯七

10・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申二一五番）

所在地 大道・香取神社

石塔型式 頭部山状角型（北西向き・高さは中）

年 号 文化三年（一八〇六）

〔正面〕

（日月）庚辰

申

〔右側面〕

文化三 寅 年十一月吉日

※香取神社そばの大道集会所の南側の小山あたりから集会所の和室あたりにかけては、富士浅間信仰の大きな富士塚があった。小山はかつての富士塚の名残といえる。

※この小山の正面頂上に、明治廿五年十二月建立の高さが一四一センチの『浅間神社』と草書体で刻まれた自然石の石塔がある。剣道と書道に秀でた幕末明治の偉人、山岡鉄舟による書である。また、近くには明治四十年四月に建立の高さが一〇五センチ（台石の高さは除く）の『御嶽神社 栗原永喜拝書』と刻まれた自然石の石塔、年代不詳の高さ六三センチの『小御岳大神』と刻まれた自然石の石塔や稲荷社の祠もある。『浅間神社』と刻まれた石塔は次の通りである。

◎浅間神社文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大道・香取神社

石塔型式 自然石（東南東向き・高さは高）

年 号 明治二十五年（一八九二）

〔正面〕

〔正面台石〕

北足立郡
神根村大字木曾野
先達 石井佐喜次良
同郡 野田村大字大崎
先達 井上正
脇先達 高橋長治良
当所世話方

浅間神社

（山に丸参の富士講のマーク）

伊藤

正四位山岡鐵太郎拜書

当所結社

川島代治良
同 市蔵
同 幸八
同 兵五
鈴木馬
栗原彌
大武新治郎
小林彌右エ門
同 忠太郎
鈴木高三良
栗原梅吉
川島彌助

〔裏面〕

明治廿五年十二月建立

※明治初期の廃仏毀釈の影響で大道村の帰命院が廃寺となったが、現在の大道香取神社の南側隣の畑地にあった。つまり香取神社と帰命院は隣にあった。帰命院の本尊は不動明王である。現在、その名残として鈴木家（大道八九）そば路傍に、帰命院の本尊と思われる不動明王像やその二童子の片方である矜羯羅童子像などが祀られた祠がある。

※なお、大道地区に屋号が「栗師様」と呼ばれる栗原家（大道二七九）がある。栗原家所有の高さが一七・五センチの厨子入りの栗師如来座像（明治十五年に栗原梅吉氏が手に入れる）が庭にある祠に納められている。戦前・戦後と地元での信仰が盛んであった。

(8) 川原家(大道一八四)前の路傍

[右側面]

11・土荒神文字塔(『越谷市金石資料集』荒神六番)

所在地 大道・川原家(大道一八四)前の路傍、赤塗り石製鳥居そば
石塔型式 祠型(東向き・高さは低)
年号 不詳

[正面]
土荒神

※「土荒神(どこうじん)」とは「土公神」のことであろう。なお邸内に年代不詳の「井戸水神」の文字石塔がある。

(9) 八坂神社そば路傍

12・道標付きの文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二六七番)
所在地 大道・八坂神社そば路傍
石塔型式 頭部山状角型(南東向き・高さ高)
年号 天保四年(一八三三)

[左側面]

[左側台石]

栗原佐 川原喜 栗原富 同吉 同勘 同木八 栗原岩 同吉良 同次右 川嶋文右 同林右 栗原長三 川嶋勇之 同亥之 鈴木勘左 川嶋武右 同庄 栗原文次 川嶋徳左 川嶋徳左

[正面台石]

(三猿)

[正面]
庚申 塔石
小倉前中納言□季實男□紫永退衛
(要)(賜)

天保四 癸巳 年三月吉日

北のミち

セ ハ 人

[右側台石]

栗原 鈴木 小島 鈴木 栗原 川嶋 川嶋 同 同 栗原 鈴木 栗原 中村 同 同 同 同

東まくり
大道村
南いわつき

※北は野道、東は間久里、南は岩槻を示している道しるべも兼ねた庚申塔である。

(10) 八坂神社

13・天神文字塔(『越谷市金石資料集』天神三番)
所在地 大道・八坂神社
石塔型式 祠型(西向き・高さ中)
年号 天明三年(一七八三)

[左側面]

天明三 癸卯 正月吉日

[正面]
天満大自在天神

[右側面]

大道村 講中

※天満天神とは、学問の神である菅原道真をさす。

14・荒神宮文字塔（『越谷市金石資料集』荒神一番）
所在地 大道・八坂神社

石塔型式 祠型（東向き・高さ中）

年号 明和七年（一七七〇）

〔左側面〕

明和七 庚 三月吉日

〔正面〕

如来芒荒神宮

〔右側面〕

□仙造立之

（11）八坂家（大道四八七）

八坂家は、江戸時代には本尊が阿弥陀如来の真言宗の寺院、「天王山正福院」が置かれていた地である。明治初期の廃仏毀釈で廃寺となった。

この正福院は、弘法大師の札所巡りである武蔵国八十八箇所の一番として栄えていたのである。廃寺以降は、三野宮の一乗院が代わって三十一番となった。

なお、この札所巡りは、明治十七年頃より、南足立郡、北足立郡、埼玉郡の三郡にまたがるので、『三郡送り大師』として復活し、大いに盛んになった。そして、お遍路さんが地元の大道二五八の川島家（屋号は「米屋」）や大道一七六七の川島家（当時は、大道六九の地にあった。屋号は「たちやさん」）に立ち寄ったという。

15・観音菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大道・八坂家（大道四八七）墓地

石塔型式 舟型（西向き・高さ高）

年号 元禄十六年（一七〇三）

〔正面〕

権大僧都法印秀翁
（梵字サ）（正 観 音 菩 薩 像）

元禄十六 癸 未十二月廿日

16・背面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大道・八坂家（大道四八七）敷地内

石塔型式 笠付角型（東向き・高さ高）

年号 元文五年（一七四〇）

〔左側面〕

奉供養大道村中

〔台石左側面〕

牛込

石屋四郎右衛門

〔正面〕

（日月）（背面金剛像）（鬼）（三猿）

〔右側面〕

元文五 庚 申年

（12）川島家（大道二二二）路傍

17・梵字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二五五番）

所在地 大道・川島家（大道二二二）入口の路傍

石塔型式 頭部山状角型（西向き・高さ中）

年号 文政十年（一八二七）

〔左側面〕

〔左側台石〕

栗原文蔵

同 長右エ門

同 佐左エ門

同 伝次郎

同 富蔵

同 吉右エ門

同 仙蔵

鈴木藤吉

栗原吉良兵衛

川嶋宗次郎

川原喜右エ門

河嶋勇蔵

栗原平次郎

同 茂右エ門

川嶋庄右エ門

大武八之助

〔正面台石〕

（三猿）

〔正面〕

（日月）（梵字ウーソ）

〔右側面〕

〔右側台石〕

栗原半〇〇
鈴木栄〇〇
同 網右工門
川嶋伊之助
栗原勘五良
鈴木紋蔵
小林仙次良
栗原繁次郎
鈴木八五郎
栗原勘次郎
大武庄次郎
小林弥右工門
川嶋幸蔵
栗原政之助

大道村

(13) 小林家 (大道一四)

18・普門品供養塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大道 (新田)・小林家 (屋号「観音経」大道一四) 路傍
石塔型式 頭部山状角柱型 (南向き・高さ高)
年 号 文政六年 (一八二三)

〔左側面〕

(梵字ア) 光明真言二百萬遍供養

唱主

造主者

〔正面〕

(梵字サ)

並目門口如世供養塔

〔右側面〕

真月観光沙彌誦主
覺法明果大姉願主

〔裏側〕

文政 癸未年二月吉日

大道新田

小林市右工門

造立焉

※小林家は屋号を「観音経 (かんのんぎょう) どん」と代々呼ばれているが、それは小林家の先祖 (市右衛門) が観音経を熱心に信仰したためであるという。この石塔はそのことを物語るものである。

19・道標付き石橋供養塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大道 (新田)・小林家 (屋号「観音経」大道一四) 路傍

石塔型式 不明 (駒型力、南向き・高さ低)

年 号 明和二年 (一七六五)

〔左側面〕

是より右ちざう道

〔正面〕

明和二年十月吉日 願主善教
奉建立立石橋供養塔
岩付領大道村〇〇村中

※この石橋供養塔は小林家の田の中 (大道新田稲荷神社南東、現在の千間台西五十二) にあったものである。

※この他に、年代不詳の馬頭観音文字塔がある。正面は「馬頭観世音」、右側面は小林〇〇と刻まれている。

(14) 大道新田稲荷神社

20・背面金剛像庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔三二〇番)

所在地 大道 (新田)・稲荷神社

石塔型式 駒型 (東向き・高さ高)

年 号 享保元年 (一七一六)

〔正面〕

〔正面台石〕

小林甚兵衛
川名市三郎
川名市三郎
加藤市〇〇門
中山伝左衛門
享保元年申年
九月吉日
川嶋平兵衛
川名〇〇門
村上清右工門
村上太郎兵衛

(日月) (背面金剛像) (鬼) (二鶏) (三猿)

21・普門品供養付き庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二六三番)

所在地 大道 (新田)・稲荷神社

石塔型式 頭部山状角型 (東向き・高さ中)

年 号 天保三年 (一八三二)

〔左側面〕

〔左側台石〕
世 小林茂左工門

普門品供養塔

話

井上茂助
同 清次良
加藤市良右工門
川嶋喜右工門
同 定右工門
同 勝右工門
同 音五良
吉澤茂吉
大武源茂
同 源七
同 次良左工門
川嶋要助
栗原常右工門
人 小林喜三良

〔正面〕
(日) 庚申塔

(三猿)

〔右側面〕

天保三壬辰九月吉日
岩槻領大道村
新田組隣中

22. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔三〇四番)
所在地 大道(新田)・稻荷神社
石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さ高)
年号 文久二年(一八六二)

〔左側面〕

天下泰平

〔正面〕

〔正面台石〕

世 井上弥治良
大武銀之助
川嶋金蔵
加藤熊五良
井上庄次郎
川嶋嘉蔵
同 清蔵
小林茂左工門
同 與七
吉沢傳吉
大武宇兵工

(日) 庚申塔 (三猿)

話

〔右側面〕

〔右側台石〕

文久二壬戌年九月吉日

大道新田組

越ヶ谷宿
石工長兵工

23. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二四一番)
所在地 大道(新田)・稻荷神社
石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さ中)
年号 文政四年(一八二二)

〔左側台石〕

庚申塔

人
同 八十吉
小林万吉
川嶋音次良
井上幸右工門
栗原巳之吉
川嶋金次良
同 巳之助

大武みよ
井上さつ
加藤かつ
川嶋の
同 いてう
同 やかえ
大武き
同 そよ
井上きの

はり
こよ
しのみ
ときよ
こと
こちん
まさん
きん
きん
きん
いわつき
やす

〔正面〕

〔正面台石〕
世話人
大武源次良
同久藏
小林茂左門
栗原常右門
川嶋定右門
同喜右門
井ノ上茂助
同清次良
小林平吉
大武伊右門
吉沢茂吉
川嶋千之助
栗原万吉
同鉄三良
川嶋幸右門
大武次良左門

(日月) 青面金剛 (三猿)

〔右側面〕

文政四辛巳三月吉日

大道村新田

講中

24・文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一九一番)

所在地 大道(新田)・稻荷神社

石塔型式 頭部山状角型(東向き・高さ中)

年号 寛政十年(一七九八)

〔左側面〕

寛政拾 戊午歳

〔正面〕

〔正面台石〕
大道新田

世話人
との
とめ
かつ
しの
みよ
ち
りつ
がつ
もよ
きち
はつ
さき

(日月) 青面金剛

〔右側面〕

十一月吉日

25・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二二)

所在地 大道(新田)・稻荷神社

石塔型式 笠付角型(東向き・高さ中)

年号 文化四年(一八〇七)

〔左側面〕

〔左側台石〕

世話人

文化四丁卯年

〔正面〕

(青面金剛像)(鬼)

(三猿)

〔右側面〕

〔右側台石〕

小林市右衛門
栗原政右衛門
川嶋金藏
大武新藏
大武源藏
大武忠右衛門
吉澤與右衛門
井上安右衛門
井上半次郎
川嶋弥七郎
川嶋又右衛門

小林市右衛門
栗原吉右衛門
大武定四郎
栗原主水
加藤半藏
井上佐平次
川嶋幸右衛門
小林與吉
大武源次郎
小林治郎八
川嶋重左衛門

九月吉日

26・文字庚申・普門品供養塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二四番)

所在地 大道(新田)・稻荷神社

石塔型式 駒型(東向き・高さ中)

年号 宝暦八年(一七五八)

〔左側面〕

宝暦八 戊寅天

大道村新田
講中十三人

〔正面〕
〔日〕

大青面金剛
奉供養

(三猿)

普門品一万巻

〔月〕

〔右側面〕

正月 吉祥日 麟中十二人

※上部左右両端に、日月が刻まれている。

※文字庚申塔と普門品供養塔の二つを兼ね備えた珍しい石塔である。

※力石がそばに一基ある。石には「寛延二己巳五月吉祥日 武州岩付領」

「奉納力石」、三拾六貫五百匁」と刻まれている。

旧大竹村の石仏

(1) 大竹香取神社

香取神社は、大竹村の鎮守である。

1. 猿田彦文字庚申塔(「越谷市金石資料集」猿田彦七番)

所在地 大竹・香取神社前路傍

石塔型式 頭部山状角型(南向き)

年 号 天保二年(一八三一)

〔左側面〕

天保二 辛卯 三月吉日

〔左側台石〕

世 曰倉惣右工門

話 吉沢徳次良

人 関根桑次郎

□柳元右工門

〔正面〕

(日月) 猿田彦大神

〔正面台石〕
(三猿)

〔右側面〕

武州崎玉郡岩槻領

大竹村 中

2. 八幡宮文字塔(「越谷市金石資料集」八幡一番)

所在地 大竹・香取神社前の祠の中

石塔型式 祠型(角型に屋根を乗せたのも・南向き)

年 号 文化十二年(一八一五)

〔左側面〕

文化十二亥十一月再建之

〔正面〕

八幡宮

〔右側面〕

大竹村

氏子 中

※八幡神(はちまんじん)とは、応神天皇とその母の神功皇后をさし、
弓矢の神として武士の間で信仰された。

3. 普請供養塔（『越谷市金石資料集』普請八番）
所在地 大竹・香取神社参道
石塔型式 駒型（東向き）
年 号 安永四年（一七七五）

〔正面〕

安永四 乙 未 天武州埼玉郡岩附領大竹村

講中 向佐仙右衛門
白倉甚左衛門

奉階建立供養塔

願主 関根長四郎
小曾川藤治郎

大道村寄進

惣右衛門
與平政

十二月吉日

常右衛門

※階（きざはし）とは階段（この場合は石段）のことか。

4. 神明宮文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大竹・香取神社参道

石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたもの・東向き）
年 号 文久二年（一八六二）

〔左側面〕

文久二壬戌年十二月吉日

〔正面〕

神明宮

〔右側面〕

願主 嶋村音次良
関根治兵エ

※神明とは、天照大神（あまてらすおおみかみ）をさす。

5. 天満宮文字塔（『越谷市金石資料集』天神一六番）

所在地 大竹・香取神社参道

石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたもの・東向き）
年 号 安政四年（一八五七）

〔左側面〕

安政四巳年十二月吉日

〔正面〕

天満宮

6. 第六天文字塔（『越谷市金石資料集』第六天五番）
所在地 大竹・香取神社参道
石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたもの・東向き）
年 号 不詳

〔正面〕

大 六 天

※第六天（大六天）とは、この天に生まれた者は他の作り出した楽しみを自由自在に自分の楽しみとすることができるといふ。この天には仏法の妨げをするといわれる魔王の住所があるといふ、「第六天の魔王」の魔力で願い事をかなえてもらおうとする信仰のあらわれである。

7. 牛頭天王文字塔（『越谷市金石資料集』牛頭一番）

所在地 大竹・香取神社参道

石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたもの・東向き）
年 号 延享元年（一七四四）

〔左側面〕

延享元 甲 子 年

〔正面〕

牛頭王八王宮

〔右側面〕

大竹村願主 彦七郎

8. 山王文字塔（『越谷市金石資料集』山王三番）

所在地 大竹・香取神社参道

石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたもの・東向き）
年 号 文久二年（一八六二）

〔左側面〕

文久二壬戌年十二月吉日

〔正面〕

山 王 宮

〔右側面〕

願主 嶋村音次良
関根治兵エ

※山王（さんのう）権現とは、大津市坂本の日吉（ひえ）神社、或いは東京都千代田区の日枝（ひえ）神社の神で、紫菱鳴尊をさす。

9・普請供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 大竹・香取神社参道
石塔型式 角型（東向き）
年 号 正徳四年（一七一四）

〔正面〕

正徳四 甲 午 年
施主大竹村
向左又七良
関根長右衛門

（梵字キヤ）奉納石燈籠

九月吉日

□（細）倉吉三良
□（嶋）村彦市良
□（内）田
□□七良

〔右側面〕

□弥五兵衛
□村紋四良
□（鈴）木弥五右衛門
□（内）田滑兵衛
□（鈴）木

10・稲荷文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 大竹・香取神社参道の祠の中
石塔型式 祠型（角型に屋根を乗せたもの・東向き）
年 号 文久二年（一八六二）

〔左側面〕

文久二壬戌年十二月吉日

〔正面〕

稲 荷 大 明 神

〔右側面〕

願主 嶋村音次良
関根治兵エ

（2）東養寺（太子堂）

地元の人からは「太子様」と呼ばれ親しまれている東養寺は、かつては境内地に太子堂があり、毎年七月二十二日に地元の旗節職人や指物師が集まって太子講が開かれていたが（当時の大竹は旗節、指物の生産が村をあげて盛んであった）、現在は太子堂もなく、信仰も離れた。太子堂とは職人の間で信仰されている聖徳太子を祭るお堂のことである。本堂には、聖徳太子孝養像の他、阿弥陀如来像、十一面観音菩薩像、不動明王像、閻魔大王像、弘法大師像などが安置されている。

11・道標付き文字庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 大竹・東養寺
石塔型式 頭部山状角型（南向き）
年 号 安政三年（一八五六）

〔左側面〕

丙 安 政 三 年
辰 四 月 吉 日
東 まくり半道
かすかへ二り

〔正面〕

（日月） 庚 申 南 大竹村
講 こしかや一り
中

〔右側面〕

武州埼玉郡
岩 附 領 西 のしま半道
北 いわつき二里
のミチ

※東は間久里や粕壁、南は越ヶ谷、西は野島や岩槻、北は野道を記した道しるべの石塔である。
※『金石資料集』の庚申塔三三一番（年代不詳）の庚申塔のことか。

12・六十六部回國塔（『越谷市金石資料集』六十六部七番）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 舟型（北西向き）

年 号 享保十八年（一七三三）

〔正面〕

奉納大乘妙典六十六部供養佛
（梵字ア）
（地蔵菩薩立像）
享保十八年十一月吉日 領主知敬

13・十三仏塔（『越谷市金石資料集』十三仏一番）

所在地 大竹・東養寺
石塔型式 板碑型（北西向き）

年 号 元文五年（一七四〇）

〔正面〕

十三仏 □ 供養講中 善女十四人助縁村中

梵字バン 梵字ベイ 梵字ユ
（大目） （薬師） （不動）
梵字ウー 梵字サ 梵字カ 梵字バク
（虚空蔵） （阿闍） （観音） （地藏） （釈迦）
梵字タラーク 梵字ウー 梵字サ 梵字カ 梵字バク
（虚空蔵） （阿闍） （観音） （地藏） （釈迦）
梵字キリーク 梵字サク 梵字アン 梵字マン
（阿弥陀） （勢至） （普賢） （文殊）

元文第五庚申天十月中旬大竹村

14・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申九四番）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 駒型（北西向き）

年 号 享保十八年（一七三三）

〔正面〕

享保十八 丑 天

（梵字ウーン）大青面金剛（二鶏）（三猿）

十一月吉日

15・一石六地藏菩薩塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 駒型（北西向き）

年 号 寛文元年（一六六一）

〔正面〕

（六体の 寛文元年

地蔵 為法界衆生菩提也廿九人 大竹村

菩薩像） 十月廿五日 奉 人

16・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申五一番）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 駒型（北西向き）

年 号 正徳元年（一七一）

〔正面〕

（ゆき

たん

ちん

ちや

せん

（鶏）

（鬼）

（三猿）

（鶏）

（月）

（青面金剛像）

正徳元 辛 卯 十月吉日

17・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申一〇八番）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 駒型（北西向き）

年 号 延享三年（一七四六）

〔左側面〕

奉造立

〔正面〕

（日）（青面金剛像）（鬼）（二鶏）（三猿）

〔右側面〕

延享三 丙 寅 九月吉日 外助縁

18・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申一五五番）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 駒型（北西向き）

年 号 安永六年（一七七七）

〔左側面〕

奉供養庚申講中

〔正面〕

（日）（青面金剛像）（鬼）（三猿）

〔右側面〕

安永六 西 九月吉日

19・寺院名文字入り石塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 不明（北西向き）

年 号 享保十二年（一七二七）

〔正面〕

享保十二 丁 未 年 法印

太子山龍藏院東養寺

五月廿四日照戒代

※この石塔により、この地が『太子山龍藏院東養寺』であることがわかる。

※この上に乗っている石塔は全くの別物である。参考までに紹介すると中央に「（梵字ア）法印権大僧都」、その両側に「延宝三 甲寅歳」「十月廿一日」と刻まれている。

20・光明真言供養塔（『越谷市金石資料集』真言三番）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 舟型（北西向き）

年 号 元禄十二年（一六九九）

〔正面〕

乃至法界平等利益 大竹村中 敬白
（梵字ア）奉 誦 光明真言数万遍為二世 安樂也

元禄十二己卯年十一月八日

21・背面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申二番）

所在地 大竹・東養寺

石塔型式 笠付き角型（北西向き）

年 号 文化元年（一八〇四）

〔左側面〕

文化 元 子 年 十 一 月 吉 日

〔正面〕

（日月）（背面 金 剛 像）（鬼）（三猿）（鶏）

※この東養寺墓地内には嘉暦三年の板碑がある。

（3）大代衣ハム民館そば用水路路道端

22・道標付き普門品供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大竹・大袋公民館そば用水路（坂巻自転車店前路傍西側）

石塔型式 駒型（東向き）

年 号 文化八年（一八一二）

〔左側面〕

文化八未八月吉日
南 こし が や

〔正面〕

向 い わ っ □（き）
並 日 門 □ 叩 供 養 □（養）
観 □

東

〔右側面〕

東 ま く □（り）

※現在のは向佐家（大竹一五三）が管理している。

（4）向佐家（大竹一五三）邸内

23・并財天文字塔（『越谷市金石資料集』并財天四番）

所在地 大竹・向佐家（大竹一五三）邸内

石塔型式 祠型（南東向き）

年 号 寛保二年（一七四二）

〔左側面〕

願主大竹村向佐常衛門

〔正面〕

辨 財 天

〔右側面〕

寛保二壬戌年六月吉日

※屋号が「元名主（もとなぬし）」と呼ばれている家である。江戸時代に名主を経験した家柄と伝えられている。現在の石塔は現在地の真南十五メートルの地点にあった。その東側隣に小さな池があったが、現在はなく新しい道路となっている。旧道路は向佐家の垣根にそってその名残が今でもある。この旧道路はさらに大袋小学校の校庭南東側を突き抜けて、恩間十三番地前の道路につながる。そしてこの古くからある道路は北上するのである。

（5）島村家（大竹四三八）北東角地

24・「北向き地蔵」像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大竹・島村家（大竹四三八）北東角地路傍

石塔型式 丸彫り（北向き）

年 号 享保十一年（一七二六）

〔正面〕

「台石」
享保十一年

（地藏菩薩立像）

十一月吉日

※前越谷市長である島村慎市郎氏宅（大竹四三八）の北東角地に内田家（大竹四三四）管理の祠がある。その中に高さ一三〇センチ程の丸彫りの地藏菩薩立像（宝珠と錫杖を持つ）が安置されている。地元では「北向き地蔵」と呼んでいる。

なお、かつて地元では、正月三日、毎月一日、十五日、二十八日に北向き地蔵と近くの浅間神社、大竹香取神社の合わせて三カ所とそれに吉沢家（大竹四三二一二）の敷地内にある伏見稲荷の祠を巡拝していたという。吉沢家の伏見稲荷は二月の初午には轡が立ち、露店商がみられたほど賑わったという。

吉沢家の伏見稲荷及びその脇にある「雷天宮」（明治二巳正月吉日、木村□□□）の石塔は、以前は浅間神社そばに住んでいた木村家（現在住宅地となっている）敷地内にあったという。

（6） 武藤家（大竹六七七）そば路傍

25 地蔵菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大竹・武藤家（大竹六七七）そば路傍

石塔型式 上部隅丸角型（西向き）

年 号 文化三年（一八〇六）

〔正面〕

（文）（三）

□化□寅

□月朔日

（地 蔵 菩 薩）

※武藤家（大竹六七七）管理の全長三〇センチの地蔵菩薩像が武藤家前の新設された東西に走る道路南側路傍にある。かつては南北に走る道路の脇の畑地（武藤家所有）に道路に向けて西向きに建てられていた。地蔵像の向かって右脇に「□化□寅」「□月（三月）朔日」との文字が読み取れる。文化三年（一八〇六）寅年に造立した石仏だろうか。

旧恩間村の石仏

（1） 恩間新田稲荷神社

能満寺の持ち分であった。

1 牛頭天王文字塔（『越谷市金石資料集』牛頭天王二番）

所在地 恩間（新田）・恩間新田稲荷神社

石塔型式 祠型（北東向き・高さは中）

年 号 延享二年（一七四五）

〔左側面〕

延享二乙丑 九月吉日

〔正面〕

牛頭天王神

2 天神文字塔（『越谷市金石資料集』天神一五番）

所在地 恩間（新田）・恩間新田稲荷神社

石塔型式 祠型（南東向き・高さは中）

年 号 嘉永年間（一八四八～一八五三）

〔左側面〕

十二月建之

〔正面〕

〔正面台石〕

山崎□松

福田久次郎

同 源助

新坂利作

山崎登□蔵

同 樞次郎

（損傷が激しく、解説不能）

※稲荷神社入口参道北側に損傷が激しい天神文字塔が二基ある。

一つは、『越谷市金石資料集』の天神一五番に載っている石塔（嘉永年間）と思われる。左側面に「□十二月建之」と刻まれている。

※もう一つは、天神二四番に載っている、正面に「天神社」と刻まれた年代不詳の石塔（高さ三七センチの自然石）と思われる。この石塔とその下にある台石は、石質が異なるため、石塔と台石は別物と思われる。なお、台石に刻まれている奉納者名は次の通りである。

台石の左側面には、「恩間新田、新坂発作、根岸留之助、福田茂市、

新坂滑六、原田源次郎、同 稻吉」

台石の正面には、「恩間新田、山崎半蔵、根岸滑八、原田信蔵、新坂孫三郎、同滑左エ門」

江戸力持 三ノ宮 卯之助

高崎 力

「力持」とは江戸時代後期に全国的に流行した重い石を持上げて力くらべをした人達のことをいい、その石を「力石」と呼び今でも各地の寺社境内等に残っている。

力石の多くは卵形で無銘の石と、年号や奉納者名などを切付けた石とがある。

日本最古といわれる切付力石は江東区にあり、寛文四年（一六六四）の年号があり、越谷市域最古の切付力石は東越谷香取神社の元禄十三年（一七〇〇）である。現在越谷市内の切付力石は七十四個余であるが保存措置や力石への認識不足から年毎にその数を減少しつつある。 ※現在は、久喜市樋ノ口の八幡神社にある寛永九年（一六三二）の力石が最古。

三ノ宮卯之助は文化四年（一八〇七）岩槻藩領三野宮村（現越谷市三野宮）に生まれた。その頃江戸では神田鎌倉河岸の豊島屋、神田明神下の内田屋の若衆の間で力くらべが流行しており、「江戸力持番付表」まで売られる程盛況であった。卯之助は生来虚弱体質であったが、人一倍体を鍛えて十五・六歳頃には村一番の力持に成長した。その頃、生家近くの元荒川で米俵を積んだ船が浅瀬に乗り上げてしまった。卯之助は船の下に潜って両手足で船底を持ち上げ沖へ移動させた。この件が縁で瓦曾根河岸場の船荷人足となり更に体力をつけて行ったものと思う。卯之助が「力持」としてデビューしたのが文政十二年（一八二九）二十三歳の時で、この年号の力石が越谷瓦曾根と岩槻飯塚に残っていたが、瓦曾根の力石は現在行方不明となっている。

文政十三年（一八三〇）～天保七年（一八三六）卯之助二十三歳～二十九歳の間は越谷・岩槻・川口・江戸・木更津・川崎・綱島等の寺社・有力者から招待されて奉納力持興行を行いながら実力をつけ、天保七年（一八三六）二十九歳で「江戸力持番付表」では関脇にランクされた。

天保九年（一八三八）三十一歳になった卯之助は体力・技能とも充実し、仲間十数人と一座を構成し全国巡業に旅立った。中山道を経て信州諏訪大社の御柱祭みはしらまつりに合わせて下社秋宮しもぐやあきみやで興行。尾州・難波を巡回し遠くは網干港あびし町（現姫路市と合併）で興行。網干魚吹八幡社あびしうすぎには卯之助力石が二個保存されており、この興行で配布された「引札」ひきふだ（チラシ）は関西方面に二種残っている。復路は東海道を巡業したことを立証するかのようによろ去年暮れ鎌倉鶴ヶ岡八幡宮門前稻荷社で卯之助力石二個が発見された。

嘉永元年（一八四八）四十歳の卯之助力持興行は絶頂期にあり。元荒川舟の一件にヒントを持つ「牛馬小舟指し」の演物だしものは江戸中の大評判であった。この頃、三野宮・戸田・桶川では四百kg前後の大石を指し、現在その大石を型どった銘菓が桶川で売られている。

卯之助は江戸で死亡しているが、死亡原因は謎である。位牌には「到刹清伯士 嘉永七年七月八日 不二位」
「日本市大力持 三ノ宮卯之助 四十八歳」とある。

三ノ宮卯之助の生立ち

卯之助は文化四卯年（一八〇七）岩槻藩領三野宮村（現越谷市三野宮）に生まれる。昭和二十年代の地元ちよんの古老の話しをまとめると次のようである。

卯之助は生まれつき虚弱体質の小柄な少年であったという。そのため当時流行していた相撲や力石持ちからいしちではいつも最下位であったことから少年仲間から「力なし」と仇名あだなされていた。彼は余りのくやしきから奮起一番、夜など人目につかないところで練習に励み、身体を鍛えていた。やがて村相撲や力石では頭角を現わすまでに成長した。そんな或る日、近くの元荒川で米俵を積んできた舟が浅瀬に乘上げてしまった。船頭や村人が舟を引いても押しても動かない。それをみていた卯之助は川に飛び込み、舟の下へ潜って仰向けになり、両手・両足を使って舟底を持ち上げ、舟を漕みちへと押しやり、遂に舟は浅瀬を離れることができたという。

※漕（みち）とは、船が通る底が深い水路。

三ノ宮卯之助の最期

卯之助の最期に関する情報および墓地については調査していない。というより手掛りが握めないのが現状である。よって昭和二十年代（一九五〇年代）卯之助の地元の古老たちの話を整理すると凡そ次のようなことになる。

江戸のさる大名（上方の）が、大阪方の力持一位の力士と、江戸方の力持一位の力士を対決させて日本一の力持ちを決定しようということになり、大阪方力持一位の者と当時江戸力持一位の卯之助を大名屋敷に呼び試合をさせた。

（中 略）

さて、今回の東西対決日本一決定戦は江戸方の卯之助が勝利して事実上の日本一は卯之助に決定した。その夜、大名屋敷で双方の力士を交えて酒宴が催された。卯之助はその帰路に突然苦痛を訴え、そのまゝ路上に於て悶死したという。このような突然死であったから死因については食中毒とも毒殺ともいわれている。

仮りに右のような死亡であったにせよ、何れの名古屋敷か、死亡原因と死亡場所、そして埋葬地（寺名など）等が明らかでないのか。さらに不思議なことに彼の位牌が永く越谷駅前通りの荻野家にあったのか。今では知る人もなくなった。位牌は現在三野宮の向佐家にある。

なお、位牌に一般人には使われない「到刹清個士」「不二位」とか、「日本市大力持三ノ宮卯之助」などから推測すると右に述べた事件は真実味を帯びてくる。

越谷市三野宮 香取神社

大磐石

嘉永元年□□

足而□□

三ノ宮卯之助

三王石

嘉永元年三月

三ノ宮卯之助持之

※ 指石

嘉永元年

三ノ宮卯之助

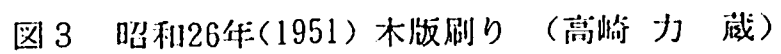
白龍石

嘉永二年

三ノ宮卯之助持之

〈郷土史家の高崎力氏のご厚意により、長年のご研究の発表資料の中から抜粋し、構成しました。〉

江戶持三賞卯之鮎



大道遺跡（仮称）

宮川 進

市内大道の大道遺跡については、昨・平成十三年秋に、越谷市教育委員会の発掘調査がおこなわれ、平安時代前期（九世紀から十世紀）の六軒の竪穴住居跡などが発見されました。遺跡は元荒川の左岸・自然堤防上にあります。

市内を流れる元荒川の右岸、左岸や古利根川右岸の自然堤防上には、古代に私達の直接の先輩が暮らした遺跡が数多く眠っています。大道遺跡に住んだ人たちは、現在の私たちの直接の先祖ではありません。しかし、このような人たちがこの越谷の地に住み、そして、その後も住み続ける人たちがあったために越谷ができ、私たちも越谷に住むようになったのではないのでしょうか。

そういう意味で、大道遺跡に生きた人たちの歴史は「私たちの歴史」です。私たちは自らの歴史を消すようなことがあってはなりません。大切に、大切に、これらの遺跡を保存していきたいものです。

《大道遺跡で発見されたもの》

◎平安時代（九世紀から十世紀）の住居跡 六軒

◎中世から江戸時代の掘立柱建物跡 一棟

◎土師器・須恵器（甕・坏・皿など） 多数

◎その他 漁業用土錘（おもり）、砥石など

※土師器・弥生土器の系譜につながる、古墳時代以降の素焼きの赤褐色の土器。文様は少なく、実用的で、煮炊きや食器に用いるものが多い。

※須恵器・古墳時代後期から奈良・平安時代に行われた、大陸系技術による素焼きの土器。高温の還元炎で焼くため暗青色を呈する。（広辞苑より）

大道遺跡（仮称）の掘立柱建物跡は、

「帰命院」と呼ばれる寺院跡

加藤 幸一

平成十三年秋に試掘調査が行われた大道遺跡のうち、香取神社南側の畑地から出てきた掘立柱建物跡は江戸時代の「帰命院」と呼ばれる寺院跡と推定できる。香取神社と帰命院は隣あったのである。この地には以前から「寺院があった」との言い伝えがあり、この言い伝えが一層確かなものとなった。この遺構のさらに南方の道路側にはその名残としての墓地が見られる。では、「その寺院の名称は」となると、誰も答えられる者がいない。

江戸時代に作成された『新編武蔵風土記稿（しんぺんむさしふどきこう）』に記載された大道村の寺院は二つあった。しかし、明治の初め頃に全国的に荒れ狂い、わが国の仏教界に大きな打撃を与えた「廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）」の運動がこの地にも当然及んで、二つの寺院が廃寺となってしまったのである。それは、正福院（しょうふくいん）と帰命院である。

正福院については、現在の八坂家（やさかけ、大道四八七）敷地にあったことが八坂勲氏からの聞き取り調査により判明した。するとこの掘立柱の建物跡は、もう一方の寺院である帰命院に違いないのである。

この寺院は、『新編武蔵風土記稿』によると、本尊が不動明王（ふどうみょうおう）となっている。現在、南側にある道路に面した所に寺院の本尊としてふさわしい不動明王像が祀られている祠がある。この不動明王像が帰命院の本尊なのであろう。

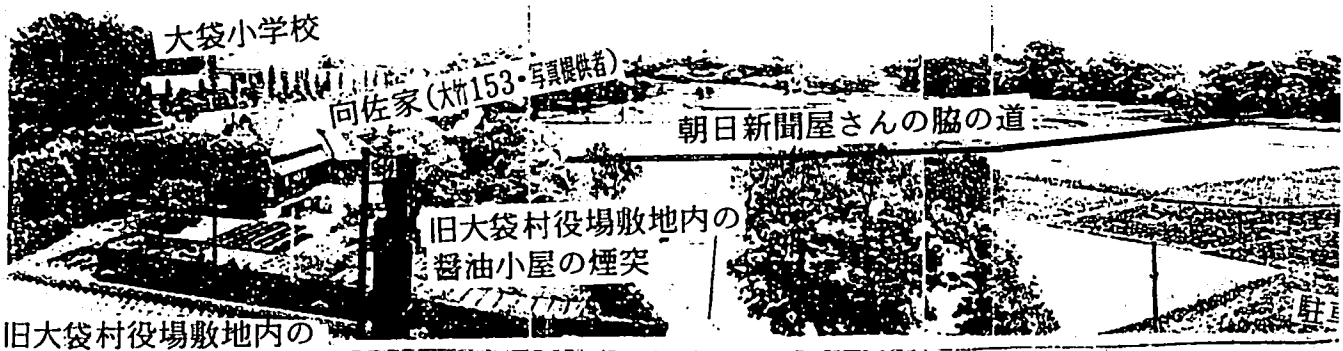
昭和36・7年頃の大竹

――旧大袋村役場（現、大袋公民館・J A大袋支店）敷地内のかつての

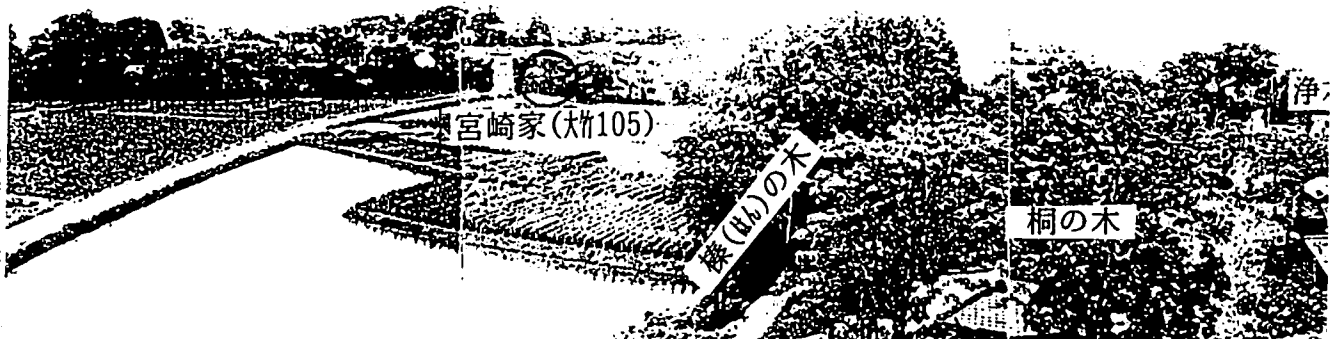
「火の見櫓」より南東方



「火の見櫓」より西方面を



旧大袋村役場敷地内の
農協倉庫の屋根



駐在所

の風景

「火の見櫓」より大竹地域を見る――

面を見る



を見る



写真提供者：向佐重之
(大竹153)

大竹神社の松の木



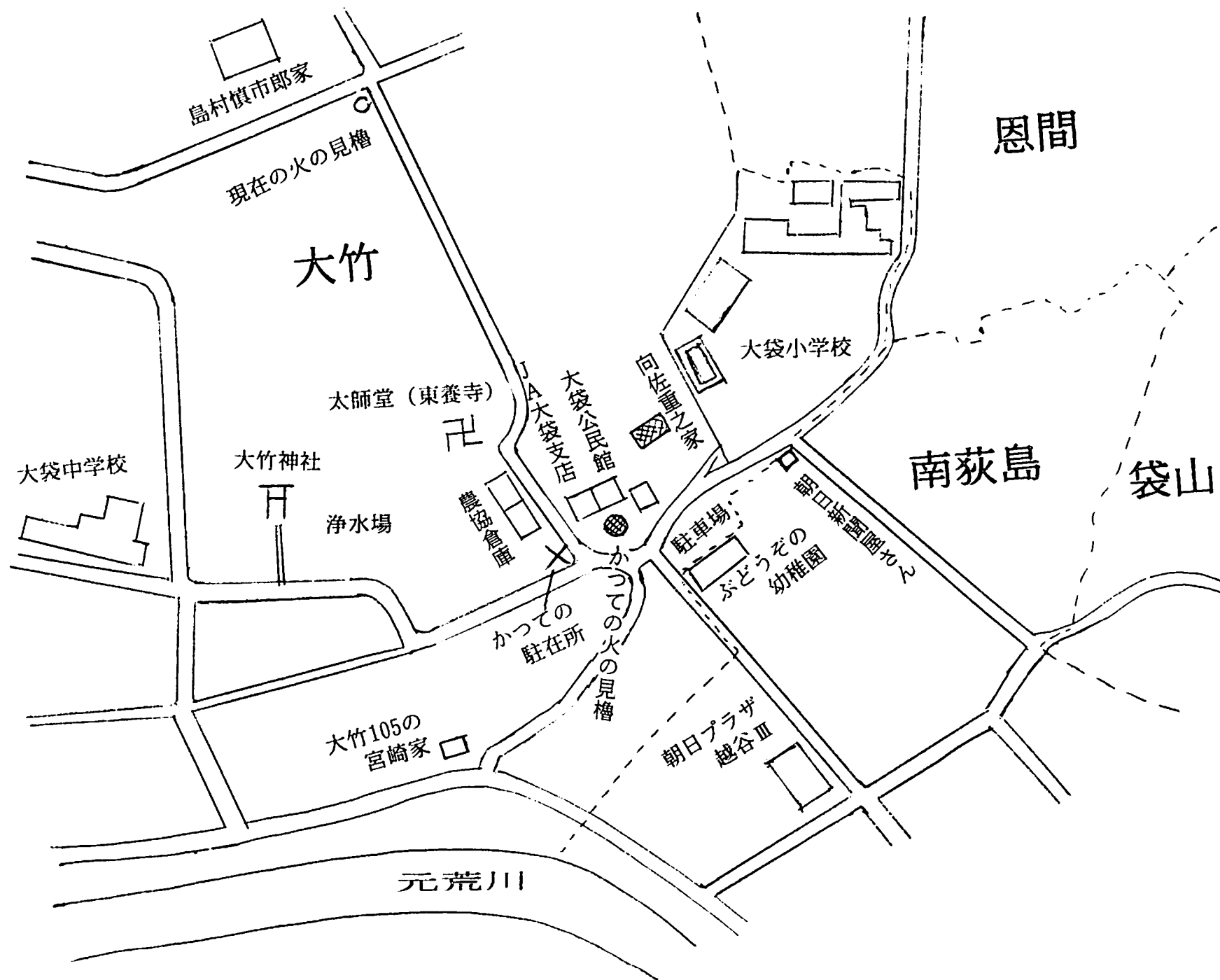
道路反対側
農協南側倉庫

昭和三十六年頃の 大竹地域の田園風景

これは、旧大袋村役場（現、大袋公民館・JA越谷市大袋支店）の敷地内にかつてあった火の見櫓から、昭和三十六年頃の大竹地域内の様子を写した貴重な写真である。当時はこの地域も田園風景がこのように広がっていたことがわかる。現在の住宅化した風景とは大きな変容ぶりである。こうした状況は、大竹地域だけのことでなく、越谷市内のかつての農村地域すべてにあてはまることである。

この頃までの大竹地域は、「大竹のタンス」として知られていて、当地域内の約五十世帯のうち十世帯程度が、桐のタンス製造業や桐箱などの小物の指物（さしもの）作りに携わっていた。戦前は、さらにもっと盛んで、多くの家々で筆筭・指物に携わっていたという。

「大竹の歩み」（大竹自治会発行）の中の「島村平市郎氏保管史料」によると、当時の大袋地区の住民たちが楽しんで歌っていた歌の中に、「大袋産業小唄」がある。この六番に『筆筭指物大竹自慢 婚礼支度はすぐできるよな』との大竹について紹介した歌詞がある。それほどまでに当地域は、筆筭・指物の製造が盛んであったのである。



越谷市郷土研究会に入ってみませんか！

越谷市郷土研究会とは（平成14年4月現在）

◎史跡めぐりなどのイベントを毎月実施し、また、毎年、越谷市民まつり・越谷市民文化祭・こしがや文化芸術祭に展示部門で参加しております。

◎当会は、昭和40年（1965）3月に発足しました。

以後地道に活動し、現在は会員数が294名の大所帯となりました。

研究発表会は131回、史跡めぐりは301回を数えるまでになりました。

◎当会の平成12年以降の主なイベントをあげますと次のとおりです。

平成12年1月30日（日） 講師 元埼玉県立さきたま資料館長大村進氏

「創立35周年記念講演会－畑三郎証言－」（後援は越谷市教育委員会・文化連）

平成12年9月2日（土） 平成12年度「歴史講座」を開始（全5回）。

平成13年8月26日（日） 奥州街道400年・記念歴史講演会（会場の本間清氏）

平成13年9月24日（月） 奥州街道400年・記念史跡めぐり（蕨～南越谷）

平成13年10月8・13日 奥州街道400年・記念史跡めぐり（南越谷～北越谷）

平成13年11月18日（日） 奥州街道400年・記念史跡めぐり（北越谷～せんげん台）

平成14年3月24日（日） 三百回記念史跡巡り・卯之助の力石を諏訪に訪ねる
現地の新聞に大々的に取り上げられる！

◎会報『古志賀谷』の隔年の発行（B5版、百十～百五十頁程度）

内容は主に会員による郷土の調査・研究の報告や随想の寄稿文などです。

昨年6月に会報『古志賀谷』十一号が全会員に無料配布されました。

◎平成13年3月4日（日）の「こしがや文化芸術祭」におきまして、

秘蔵の「増林の円空仏」を一般市民に初公開することができました。

※なお、以上の他に、三宅島噴火・避難村民のためのカンパ活動や越谷市社会福祉協議会への寄付活動などもおこなってきました。

郷土研究会にお入りになりますと

◎すべてのイベントの案内が受け取れます。

せっかくよい行事があったのに知らなかった、ということがありません。

◎会員だけのための特別行事に参加できます。

郷土研究会の会員限定イベント、例えばバス史跡めぐり等にも参加できます。

郷土研究会にお入りになるには

◎会費は、年間2千円（4月～翌年3月、会報・諸案内状・諸会議費等）です。
どなたでも気楽に入会できます。市外の方でも歓迎致します。

◎申し込みは、はがきに「平成何年度より入会」とお書きのうえ、住所・氏名・電話番号を記入し、下記までお寄せ下さい。

または、当会の各種行事の際に、郷土研究会役員までお申し込み下さい。

☎343-0806 越谷市 宮本町 3-1 1.7-8 谷岡隆夫方

越谷市郷土研究会

☎048-962-7527